

ル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル
間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ又晝間ハ直徑二尺ノ黒球三個ヲ前橋ノ前
面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ
縦ニ連掲スヘシ

右黒球及ヒ燈火ハ近寄ル他船ニ於テ運用自由ヲ得スシテ航路ヲ避
クル能ハサル船ノ信號ト看認ムヘシ

右ノ船全ク運行セサル時ハ舷燈ヲ掲クヘカラスト雖モ運行スレハ
必ス之ヲ掲クヘシ

第六條 帆前船ハ自ラ走ルト他船ニ引カル、トノ差別ナク白燈ヲ除
クノ外第三條ニ記載スル蒸氣船ノ燈火ヲ掲クヘシ決シテ白燈ヲ掲
クヘカラス

第七條 小形船ニ於テ天氣ノ模様ニ依リ緑紅ノ二燈ヲ掲ケ置キ難キ
時ハ緑燈ハ右舷ニ紅燈ハ左舷ニ於テ何時ニテモ標スヘキ様甲板上
ニ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り

行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ各舷燈ヲ他船ヨリ
最モ見ヘ易キ様各舷ニ標スヘシ但此時緑燈ハ左舷ヨリ見ヘス紅燈
ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ

此緑紅ノ燈ヲ置違ヒ無ク容易ニ取扱フ爲メ緑燈ノ燈籠ハ綠色紅燈
ノ燈籠ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且成規ノ隔板ヲ之ニ備置クヘシ

第八條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最モ見ヘ易クシテ船
体上ヨリ二丈ヲ超ヘサル所ニ白燈一個ヲ掲クヘシ○此燈火ハ直徑
六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常ニ不同ナク最モ亮明ノ
光ヲ發シ少クモ周回一里ノ距離ヨリ見ユル様ニ爲スヘシ

第九條 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フ
ル燈火ヲ掲ケス唯橋頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲
ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ
水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同様ノ燈
火ヲ掲クヘシ

第十條 甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船航行中ハ必スシモ他船ニ用フル舷燈ヲ掲クルニ及ハズ然レモ舷燈ノ代ニ一面ハ綠色ノ硝子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠一個ヲ手近ニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其燈籠ヲ標スヘシ但此時ニ綠光ハ左舷ヨリ見ヘス紅光ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ

右漁船及ヒ小船碇泊シタルカ或ハ網ヲ卸シタル時ハ亮明ナル白燈一個ヲ標スヘシ且便宜ニ從ヒ度々閃光ヲ發スルモ苦シカラス

第十一條 他船ニ追越サレントスル船ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ標シ又ハ閃光ヲ發スヘシ

霧中信號

第十二條 蒸氣船ハ汽笛ヲ音響ノ妨碍物ナキ所ニ裝置シ且霧中號角及ヒ號鐘ヲ備フヘク帆前船ハ同様ノ號角及ヒ號鐘ヲ備フヘシ但此汽笛號角及ヒ號鐘ハ善ク其用ニ適セサルカラス

霧中又ハ降雪中ハ晝夜ノ差別ナク本條ニ記載セル信號ヲ左ノ如ク用フヘシ

(甲)蒸氣船航行中ハ汽笛ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

(乙)帆前船航行中ハ號角ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタル時ハ三聲ヲ連發スヘシ

(丙)帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク航行中ニ非サレハ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ號鐘ヲ鳴スヘシ

霧中速力

第十三條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク霧中及ヒ降雪中ハ程好キ速力ヲ以テ走ルヘシ

航法

第十四條 三艘ノ帆前船互ニ近寄りテ衝突ノ懼アル時ハ一方ノ船ヨ

リ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

(甲)一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(乙)左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(丙)一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同カラサル時ハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

(丁)一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シキ時ハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

(戊)船尾ヨリ風ヲ受タル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十五條 二艘ノ蒸氣船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢フテ衝突ノ懼アル時ハ兩船共鍼路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢フテ衝突ノ懼アル時ニ限り應用スヘク各其鍼路ヲ保ナテ必ス替リ行ク時ニ應用スヘシ

カラス

本條ヲ應用スヘキ至當ノ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢ヒタル時即チ晝間ハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ殆ト一直線ニ見ユル時夜間ハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ一時ニ見ル時ニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我鍼路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユル時又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スル時又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲクシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲクシテ綠燈ヲ見ル時又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ル時ハ應用スヘカラス

第十六條 二艘ノ蒸氣船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ懼アル時ハ我右舷ニ他船ヲ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十七條 帆前船ト蒸氣船ト互ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ蒸氣船ヨリ帆前船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條 總テ蒸氣船他船ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ速力ヲ緩ニシ又ハ時宜ニ依リ停止シ且後退スヘシ

第十九條 蒸氣船此規則ニ遵テ鐵路ヲ取ル時ハ左ノ汽笛信號ヲ以テ他船ニ其鐵路ヲ通知スルヲ得ヘシ

短聲一發 我船ノ鐵路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船ノ鐵路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船一杯ノ速力ニテ退却ス

此信號ヲ用フルト否ラサルトハ隨意タルヘシ但此信號ヲ用ヒタル時之ヲ用ヒタル船ハ必ス其信號通りニ其鐵路ヲ取ラサルヘカラス

第二十條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク他船ヲ追越サントスル時ハ以上ノ規則ニ拘ハラズ總テ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 總テ蒸氣船狹隘ノ水路ヲ通航スルニ當リ無難ニ通行シ得ル時ハ其航路ノ中流ヨリ其船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十二條 以上ノ規則ニ依リテ兩船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クル時ハ他船ニ於テ其鐵路ヲ保守スヘシ

第二十三條 此規則ヲ遵守スルニ就テハ航海上百般ノ危險ニ心ヲ配リ且危險切迫シテ此規則ヲ遵守スル暇ナキ特別ノ場合ニ於テハ臨機ノ處置ヲ以テ之ヲ避クルニ注意スヘシ

懈怠ノ責

第二十四條 此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ノ怠リ又ハ海員ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ノ怠リヨリ生シタル事件ニ於テハ船主船長乗組人員各其責ヲ免ル可カラサルモノトス

別則

第二十五條 此規則ハ各地官府ニ於テ特ニ制定シタル港川其他内海ノ航行規則ヲ施行ニ干渉セサルモノトス

第二十六條 此規則ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セララル、船ニ増掲スル列位燈火及ヒ信號燈火ニ付各國政府ニ於テ特ニ制定シタ

ル規則ニ干渉セサルモノトス

罰則(十四年第三十三號布告ヲ以テ本則追加)

第二十七條 凡船舶合格ノ燈籠及信號器ヲ所持セス若クハ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

但甲板ナキ漁船及甲板ナキ小船ハ此限ニアラス

○

○ 船燈製造取締明治十四年五月第三十四號布告

明治十三年七月第三拾五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル檣燈及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○ 船燈製造及販賣規則十四年八月第四號布告
本年五月第三十四號公布相成候ニ付明治九年二月丙第五號內務省達舷燈製造及販賣規則別紙之通改定候條此旨布達候事

(別紙)

船燈製造及販賣規則

- 第一條 船燈檣燈及舷燈ヲ稱スチ製造セント欲スル者ハ先ツ其見本ヲ製シ之レチ其管轄廳チ經テ當省ヘ差出シ製造免許ヲ乞フヘシ
- 第二條 當省ニ於テハ其見本ヲ檢査シ製造方法ニ適合セルモノト看認ルルハ製造人ヘ其管轄廳チ經テ製造免許鑑札ヲ下附スヘシ
- 第三條 製造免許鑑札ヲ得タル者ハ其氏名地名ヲ新聞紙ニテ廣告シ且免許船燈製造所ト記セル看板ヲ掲出スヘシ
- 第四條 免許船燈製造人改名又ハ轉籍スルキハ其管轄廳ヘ届出ヘシ
- 第五條 製造ノ船燈ヘハ何レモ左式ニ準スル文字ヲ彫刻スヘシ
(彫刻書式略之)
- 第六條 船燈ヲ販賣セント欲スル者ハ何レモ其管轄廳ヘ免許製造人ノ製造セル船燈ヲ販賣シ度旨ヲ申出其廳ノ販賣免許ヲ受クヘシ
- 第七條 船燈販賣免許ヲ得タル者ハ舖頭ニ免許船燈販賣所ト記セル看板ヲ掲クヘシ
- 第八條 免許ヲ得タル船燈製造人ハ自ラ販賣人ヲ兼ルチ得ヘシ

此場合ニ於テハ別ニ管轄廳ヨリ販賣免許ヲ受ルニ及ハス
 第九條 免許製造人及販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應ジ管轄廳
 ニ於テ之ヲ増減スルヲ得ヘシ
 第十條 管轄廳ニ於テハ船燈製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ
 派出シ製造方法ニ照シテ其適否ヲ監査セシムヘシ但シ當省主
 務ノ官吏ヲ派出シテ不時ニ監査セシムルコトアルヘシ
 第十一條 船燈製造方法書ハ商務局ニ於テ刊行シ各地方廳及ヒ
 免許製造人並販賣人ヘ配付スヘシ

○船舶積量測度規則 明治十七年四月
 第十號布告

沿革略記 明治四年十二月大藏省無號達ヲ以テ船舶積石噸數改
 方法則ヲ定ム○十七年四月第十號布告ヲ以テ船舶積
 量測度規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

船舶積量測度規則別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ之ヲ施行
 ス

(別紙)

船舶積量測度規則

- 第一條 凡ソ船舶海軍艦船ヲ除クノ積量ハ此規則ニ依リ測度スル者トス
- 第二條 船舶ノ積量ヲ測度スルハ總テ曲尺ヲ用ヒ尺位ヲ以テ單位ト
シ其尺度ハ分位ニ止ムヘシ
- 第三條 西洋形船ノ積量ハ百立方尺ヲ以テ一噸トシ日本形船ノ積量
ハ十立方尺ヲ以テ一石トス
- 第四條 西洋形船ニシテ甲板一層ノ者ハ其甲板ヲ以テ量噸甲板トシ
二層ノ者ハ其上層ヲ以テ量噸甲板トシ三層以上ノ者ハ其最下ヨリ
第二層ニアル者ヲ以テ量噸甲板トス
- 第五條 西洋形船ニシテ甲板一層若クハ二層ノ者ハ量噸甲板下ノ噸
數ニ量噸甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トシ又甲板
三層以上ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及
ヒ最上甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス
甲板ナキ者ハ舷端以下ノ噸數ヲ以テ該船ノ總噸數トシ又舷端以上

三船室アレハ其噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

第六條 汽船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乗組人常用室及ヒ機關室ノ噸數ヲ除キタル者トス

帆船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乗組人常用室ノ噸數ヲ除キタル者トス

第七條 乗組人常用室トシテ除クヘキ噸數ハ總噸數ノ百分ノ六トス

第八條 機關室トシテ除クヘキ噸數ノ割合ハ左ノ如シ

外車汽船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ二十ヨリ三十マテハ總噸數ノ百分ノ三十七

暗車汽船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ十三ヨリ二十マテハ總噸數ノ百分ノ三十二

機關室ノ廣狹ニ依リ前項ノ割合ニ適セサル者ハ該室ノ噸數ニ外車汽船ナレハ其二分ノ一ヲ加ヘ暗車汽船ナレハ其四分ノ三ヲ加ヘタル者トス

第九條 日本形回漕船ハ船梁上下船艙ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トシ又其構造回漕船ニ異ナル者ハ舷端以下ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トス

第十條 船舶ノ噸數及ヒ積石測度ノ方法ハ布達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

○船舶積量測度方法第十七年四月第十號布達
今般第拾號ヲ以テ船舶積量測度規則布告候ニ付テハ船舶積量測度方法別紙ノ通相定ム

(別紙)

船舶積量測度方法

第一條 西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 量噸甲板ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ
テ測リ之ヨリ甲板ノ厚ニ準ヒ船首船尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長及ヒ終尾船梁ノ矢船梁ノ高形ノ三分ノ一トシテ船尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長ヲ減シテ量噸甲板下ノ長トシ之ヲ左ノ等級ニ準ヒ等分スヘシ

- 第一級 量噸甲板下ノ長五十尺迄ノ船ハ四個
- 第二級 同五十尺以上百二十尺迄ノ船ハ六個
- 第三級 同百二十尺以上百八十尺迄ノ船ハ八個

第四級 同百八十尺以上二百二十五尺迄ノ船ハ十個
第五級 同二百二十五尺以上ノ船ハ十二個

量噸甲板下ノ長ヲ等分シタル後其各分長點ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底内板ノ上面ニ至ル深ヲ測リ之ヨリ船梁ノ矢三分ノ一ヲ減シ之ヲ各分長點ニ於ケル量噸甲板下ノ深トス而シテ中央分長點ニ於ケル深十六尺迄ハ四個十六尺以上ナルトキハ六個ニ各深ヲ等分スヘシ
各深ヲ等分シタル後其各分深點及上下兩端ニ於テ船内ノ幅ヲ測定スヘシ
各分深點ニ於テ幅ヲ測リタル後之ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅ヲ上下兩端ハ二倍シ此合數ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ其得數ヲ各分長點ニ於ケル橫截面積トス

各分長點ノ橫截面積ヲ測リタル後之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ奇數ニ當ル面積兩端ヲ除クハ二倍シ此合數ニ船首船尾ノ面積ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ量噸甲板下ノ噸數トス

第二項 最上甲板上諸室ノ噸數ヲ測定スルニハ該室内ノ平均ノ長ト高ヲ測リ其高ノ中央ニ於テ該室ノ前後ト中央ノ幅ヲ測リ而シテ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長ノ六分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ

除スヘシ
第三項 甲板三層以上ノ船ニ於テ量噸甲板上各甲板間ノ噸數ヲ測定スルニハ甲板間ノ平均ノ高ヲ測リ其高ノ中央ニ於テ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル長ヲ測リテ之ヲ量噸甲板下ノ長ト同一ニ等分シ而シテ高ノ中央ニ於テ其各分長點及ヒ前後兩端ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅兩端ヲ除クハ二倍シ此合數ニ船首船尾ノ幅ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除スヘシ
第二條 機關室ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ
第一項 機關室内平均ノ長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數トス
第二項 機關室ノ上端ニ機關運轉又ハ空氣流通等ノ爲メ圍ヒタル場所アルトキハ其長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ
第三項 暗車瀛船ニ於テハ軸室平均ノ長幅高ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ
第三條 甲板ナキ西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ
第一項 船首上端ノ内側ヨリ船尾上端ノ内側ニ至ル長ヲ測リ之ヲ第一條第一項ニ掲クル等級ニ準ヒ等分シ其各分長點ニ於テ船舷ノ上端ヲ境線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其他

第一條 第一項ニ據リテ噸數ヲ求メ之ヲ該船ノ總噸數トス
 第二項 船舷上端ノ境線ヲ超ニ船室ノ設アルモノハ境線上ニ於ル該室平均ノ長幅高ヲ測リテ之ヲ相乘シ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ該線下ノ噸數ニ加フヘシ

第四條 日本形回漕船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ
 第一項 船舷ノ上端ヲ境線トシ之ヨリ船梁ノ上面ニ至ル平均ノ高ヲ測リ又船首室ノ境界ヨリ船尾室ノ境界ニ至ル長ヲ測リ又船舷ノ内側ヨリ内側ニ至ル平均ノ幅ヲ測リテ此長幅高ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁上船舷ノ石數トス
 第二項 船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點及ヒ前後兩端ニ於テ深ヲ測リ又各深ノ中央及ヒ上下ニ於テ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁下船舷ノ石數トス

第五條 日本形ニシテ其構造回漕船ニ異ナル船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ
 船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長ヲ測リテ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點ニ於テ船舷上端ヲ境線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其深ノ中央及ヒ上下ニ於テ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ該船ノ石數トス

○西洋形船舶検査規則 明治十七年十二月 第三拾號布告

西洋形船舶検査規則別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

(別冊)

西洋形船舶検査規則

第一條 西洋形船舶海軍艦船ヲ除クハ此規則ニ遵ヒ検査ヲ受クヘシ但登簿

船免狀ヲ受有スルニ及ハサル風帆船ハ此限ニアラス

第二條 船舶検査所設置ノ場所ハ農商務卿之ヲ定ム

第三條 検査所所在ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其最寄検査所ニ

願出ヘシ

第四條 検査所未設ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其船籍アル地方

廳ヲ經テ農商務省ニ願出ヘシ

第五條 登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル汽船ノ検査ハ其船籍アル

地方廳ニ願出ヘシ

第六條 検査官吏ハ農商務卿之ヲ命ス但第五條ノ汽船ニ係ル検査官吏ハ府知事縣令之ヲ命ス

第七條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ適當ト認ムルトキハ農商務省ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル検査證書ヲ交付ス但地方廳ノ検査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス

- 一 番號
 - 一 船名
 - 一 船主氏名
 - 一 定繫場名
 - 一 登簿噸數
 - 一 端船其他必要ノ所屬品
 - 一 航行シ得ヘキ場所ノ定限
 - 一 證書有效期限
- 汽船ニハ左ノ事項ヲ加フ

- 一 公稱馬力
 - 一 汽機ノ種類
 - 一 汽罐ノ種類
 - 一 最大汽壓
 - 一 旅客定員
- 第八條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ不適當ト認ムルトキハ其修理ヲ命シ或ハ出航ヲ差止ムヘシ
- 第九條 検査證書ノ效力ハ其船ノ現狀ニ依リ六箇月十二箇月ニ區別ス
- 第十條 検査證書ハ船内最モ見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ
- 第十一條 検査證書ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ其理由ヲ詳記シ再渡ヲ願出ヘシ
- 第十二條 船名船主及ヒ定繫場ヲ變更シタルトキハ農商務省又ハ地方廳ニ届出ヘシ

第十三條 船体若クハ汽機汽罐其他要部ノ修理若クハ變更ヲナシタルトキハ更ニ検査ヲ受クヘシ

第十四條 船舶航行ノ用ヲ爲サ、ルニ至リタルトキ又ハ除籍トナリタルトキハ直ニ検査證書ヲ農商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ

第十五條 検査證書ノ有効期限内ト雖モ検査官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨檢スルコトアルヘシ

第十六條 船舶ノ検査ヲ受ケスシテ航行シ又ハ無効ノ検査證書ヲ使用シ又ハ検査證書ニ記載セル最大汽壓ヲ超過シ或ハ場所ノ定限ヲ越エテ航行シ又ハ検査官吏ノ命ニ違背シ修理セスシテ出航シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ出航シタル者ハ三十拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 検査證書ニ記載セル端船其他必要ノ所屬品ヲ具ヘス又ハ旅客定員ヲ超過シテ航行シ又ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 検査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セス
第二十條 第十一條第十三條第十四條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 検査細則及ヒ施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム

○在來ノ船舶検査期限 第十七年十二月
第十九號布達
今般第三拾號布告ヲ以テ西洋形船舶検査規則制定候ニ付テハ在來ノ船舶ハ明治十九年六月三十日迄ニ検査ヲ受クヘシ

○西洋形船大小砲設備ヲ許ス 明治八年五月
第九十八號布告
海軍官船ヲ除ク外西洋形船へ賊難防禦ノ爲大小砲設備ノ儀差許候條

左ノ通可相心得此旨布告候事

第一條 海軍官船ヲ除ク外諸省「使」府縣所轄ノ西洋形官船并ニ人民所持ノ西洋形商船ヘ大砲口徑四寸以内二門小銃三拾挺設備スル事苦シカラス

但船ノ噸數ニ因リ本文ニ掲クル銃砲ノ數ヲ減スルカ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便宜ニ任スト雖モ若シ増置セントスルキハ更ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 (十七年第三十一號布告火)
(藥取締規則ニ依リ消滅)

第二條 船内ヘ銃砲ヲ設備スル時省「使」ハ「正院」ヘ上請シ府縣ハ内務省ヘ申出許可ヲ受クヘシ

但人民所持船ノ分ハ其管轄廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ而シテ該廳ニ於テハ免許狀ヲ與ヘ其旨内務省ヘ届出ヘシ

第四條 銃砲ノ設備ヲ許可セシキハ其旨海軍省ヘ通知スル事トス尤省「使」ノ分ハ「正院」ヨリシ府縣并ニ人民ノ分ハ内務省ヨリ通知ス

ヘシ

第五條 諸省「使」府縣并ニ人民ニ於テ外國ヨリ買入レノ船内ニ附屬セシ分モ前條ノ手續ニ依ルヘシ

但銃砲彈藥等買入ル、節ハ明治五年^正第廿八號布告銃砲取締規則ニ從フヘシ

五年第二十八號布告銃砲取締規則及十七年第三十一號布告火藥取締規則參看第九類ニ載ス

○

○商船内犯罪取扱規則 明治十四年十二月第六拾五號布告

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス

(別紙)

商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作ルコト能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ

○西洋形船船長運轉手機關手免狀規則明治十四年十二月第七拾五號布告

沿革略記 明治九年六月第八拾貳號布告ヲ以テ西洋形船船長運轉手機關手試驗規則ヲ制定ス○十四年十二月第七拾五號布告ヲ以テ九年八月十二號布告以降ノ改正増補ニ係ル布

告ヲ廢シ更ニ西洋形船船長運轉手機關手免狀規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

西洋形船船長運轉手機關手免狀規則別冊之通改定來十五年一月二日ヨリ施行シ九年^六月第八十二號同年^六第九十四號同年^{十二}月第一百五十三號同年^{十二}月第一百五十七號十二年^{十二}月第五十八號十四年^{十二}月第十三號同年^三第十八號布告ハ同日ヨリ都テ之ヲ廢止ス

(別冊)

西洋形船船長運轉手機關手免狀規則

此規則ハ海軍諸艦ニ關セサルモノトス

此規則中内國航船ト稱スルハ支那朝鮮ノ間ニ於ケル鴨綠

江ヨリ露領黑龍江ニ至ルノ沿岸及ヒ薩噠噠諸港ニ航スル

モノモ亦包含ス

第一條 船長、運轉手、機關手ノ職ヲ執ル者ハ此規則ニ遵ヒ其職ニ應スル等級ノ免狀ヲ農商務卿ヨリ受ケ之ヲ所持スヘシ

第二條 免狀ハ甲乙及ヒ小形船機關手ノ三種トナシ又甲乙ノ兩種ト

モ船長、一等運轉手、二等運轉手、一等機關手、二等機關手ノ五分ナ
各々試験規程ニ從ヒ及第セシ者ニ授與スヘシ

第三條 試験ノ規程ハ第壹號布達ニ據ルヘシ

第四條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルヲ得下等ノ免狀ハ高等
ノ免狀ニ代用スルヲ得ス

甲種船長ノ免狀ハ乙種船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ運轉手、
機關手ノ免狀ニ於ケルモ亦同シ

乙種二等運轉手ノ免狀ハ從前ノ小形船船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効
力ヲ有シ乙種二等機關手免狀ノ小形船機關手免狀ニ於ケルモ亦同
シ

第五條 從前授與シタル本免狀ハ甲種免狀ト同一ノ効力ヲ有シ又假
免狀ハ當分ノ内乙種免狀ニ代用スルヲ得

從前授與シタル小形船船長ノ免狀ハ其効力ヲ存シ又從前ノ小形船
機關手ノ免狀ハ當分ノ内本則ノ小形船機關手免狀ニ代用スルヲ得

第六條 免狀ノ書換又ハ再授ヲ請フトキハ手数料金壹圓ヲ納ムヘシ
但シ再授ヲ請フ者ハ二名以上ノ證人ヲ要ス

第七條 免狀ハ其筋吏員ノ指圖ニ應シ何時タリトモ其檢査ヲ受クヘ
シ

第八條 甲種免狀試験課程ニ合格スト認メタル外國政府ノ本免狀ヲ
所持セル船長、運轉手、機關手ハ更ニ試験ヲ要セス原免狀同等ノ免
狀ヲ授與スヘシ

第九條 左ノ三項ニ記載スル各船ハ其所用ノ區別及ヒ登簿噸數、公
稱馬力ノ限度ニ從ヒ應等若シクハ高等ノ免狀ヲ受有スル職員ヲ乘
組マシムヘシ

第一項

三百噸未滿

外國航船

甲種免狀船長

一名以上

同 一等運轉手

同

三百噸以上 同

甲種免狀船長 同
一等運轉手 同
二等運轉手 同

一百馬力未滿 同

同 一等機關手 同

一百馬力以上 同

同 一等機關手 同
二等機關手 同

第二項

一百噸以上

內國航船

乙種免狀船長 同
一等運轉手 同

三百噸未滿

三百噸以上
五百噸未滿

同 船長 同
一等運轉手 同
二等運轉手 同

五百噸以上 同

甲種免狀船長 同
一等運轉手 同
二等運轉手 同

二拾馬力以上

同

乙種免狀二等機關手 同

五拾馬力未滿

五拾馬力以上
一百馬力未滿

同

乙種免狀一等機關手 同
若クハ甲種免狀二等機關手 同

一百馬力以上 同

甲種免狀一等機關手 同
二等機關手 同

第三項

二拾噸(滿船)以上 同

二百噸未滿

乙種免狀二等運轉手 同
若クハ從前ノ小形船船長

三拾馬力未滿

同

小形船機關手

同

二拾馬力未滿

港内若ク
ハ湖川用

小形船機關手

同

但シ二拾馬力以上ノモノハ第二項ニ準ヒ機關手ヲ乘組マシムヘシ

前記各項ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有セス或ハ禁止、停止ニ係リ受有シ能ハスシテ其職ヲ執リ出航スル者及ヒ之ヲシテ其職ヲ執ラシメ又ハ其職員ヲ減シテ出航セシムル者ハ各貳圓以上貳百五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第十條 農商務卿ハ船長、運轉手、機關手ノ技術劣等ニシテ其職ヲ執ルニ不適當ナリト考察スルトキ又ハ左ニ掲クル事項ニ於テハ其筋吏員ヲシテ之ヲ審問セシメ其免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ

第一 亂醉、粗暴其他ノ不品行若クハ指揮ニ悖戾シ又ハ職務ニ怠ル者

第二 失錯又ハ不當ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ棄テ或ハ之ニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害ヒ或ハ大傷癩ヲ被ラシメシ者

第三 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條 前條審問中檢察官又ハ被害者ヨリ裁判所ニ出訴スルキハ農商務卿其審問ヲ中止シ裁判確定ヲ俟テ之ヲ處分スヘシ

第十二條 免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルトキハ農商務卿其免狀ヲ取揚クヘシ若シ之ヲ拒ムモノハ貳圓以上貳百五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

但シ第九條末項ノ罪ト俱ニ發スルキハ罰金ヲ並ヒ科スヘシ

第十三條 免狀使用ノ停止或ハ禁止ノ處分ニ服セサルモノハ其筋へ上訴スルコトヲ得ヘシ

第十四條 免狀ノ使用ヲ禁止シタル者ト雖モ一ケ年ノ後ニ至リ農商

務卿ノ考察ヲ以テ更ニ相當ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

○西洋形船船長運轉手機關手試験規程第十四号十二月
今般第七拾五號ヲ以テ西洋形船船長運轉手機關手免狀規則改定
ニ付別冊ノ通試験規程ヲ定ム

(別冊)

西洋形船船長運轉手機關手試験規程

第一條 凡ソ此規程ニ從テ試験ヲ願フ者ハ受験ノ當日ヨリ三日
以前ニ其履歴書及ヒ性行善良ナルノ保證書ヲ添ヘ願書ヲ試験
所ヘ出スヘシ

但シ願書用紙ハ試験所ヨリ附與スヘシ

第二條 定時試験ハ内國人ハ毎月第一第三水曜日外國人ハ毎月
第二火曜日ヲ以テ東京試験所ニ於テ之ヲ開クヘシ若シ開カサ
ル時ハ農商務省ヨリ其旨十五日以前ニ廣告スヘシ(十九號布達ヲ
以テ)

第三條 試験願書ヲ出ストキ左ニ掲載セル試験料ヲ前納スヘシ

- 甲種免狀 船長 七圓
- 一等運轉手 五圓
- 二等運轉手 三圓

- 乙種免狀 船長 五圓
- 一等運轉手 三圓
- 二等運轉手 二圓
- 一等機關手 五圓
- 二等機關手 三圓

小形船機關手免狀

小形船機關手 二圓

第四條 定日外ヲリトモ別段手数料トシテ金五圓ヲ納メ臨時試
験ヲ願フトキハ東京ニ限リ司驗官ノ都合ニ因テ之ヲ許スコト
アルヘシ

第五條 船長運轉手機關手免狀規則第八條ニ從ヒ甲種免狀ヲ請
願スル者ハ本途試験料ノ半額ヲ納ムヘシ

第六條 甲種免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載セル各款ニ從
ヒ履歴アルモノニシテ其試験問題ニ應答スヘシ

二等運轉手
二等運轉手ノ受験人ハ十九歳以上ニシテ少クトモ四ケ年間西
洋形航洋船ノ運航ニ從事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト見認ムル
學校ニ於テ航海運用學卒業ノ上少クトモ三ケ年間西洋形船ノ
運航ニ從事セシモノトス

- 試驗問題
- 通常文書ノ記載
- 加減乗除及ヒ對數ノ用方
- 航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マテノ航路航程ニ羅鍼ノ偏差、自差、風壓、流潮ヲ加減シテ本船所在ノ經緯度及ヒ直航距離、方位ヲ知ルノ算法
- 起程、已達、兩所ノ經緯度ヲ以テ瑪氏航法及ヒ中分緯度航法ニ據リ航路航程ヲ知ルノ算法
- 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 太陽出沒方位ニ據リ羅鍼ノ誤指ヲ知ルノ算法
- 六分儀ノ用方
- 航海日誌ノ記載方
- 索具ノ取付及ヒ取脱方
- 揚帆、卸帆、縮帆ノ方法
- 順轉、逆轉及ヒ諸帆ヲ整頓スルノ方法
- 船貨積載ノ方法
- 測程線ノ尺度其用方及ヒ沙漏ノ時限
- 大小測鉛ノ重量其線ノ尺度、符號及ヒ其用方
- 萬國信號法
- 海上衝突豫防規則
- 海員雇入雇止規則
- 一等運轉手

- 一等運轉手ノ受験人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ一ケ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ二等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
- 試驗問題 二等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ
- 太陽方位角ニ據リ羅鍼ノ誤指ヲ知ルノ算法
- 潮時ノ算法
- 時辰儀ト太陽高度トニ據リ經度ヲ知ルノ算法
- 岬角燈臺等ノ方位ヲ測リ或ハ經緯度ニ據リ海圖ニ本船所在ノ位置ヲ記シ又偏差、自差ヲ加減シテ航路ヲ定メ航程ヲ求ムルノ方法
- 六分儀ノ動鏡、地平鏡等ノ位置ヲ正シ又太陽及ヒ地平線ニ據リ器差ヲ求ムルノ方法
- 碇泊、放泊ノ方法
- 風潮ノ變化ニ際シ放泊船ヲ安全ニ處置スルノ方法
- 出入港運轉ノ方法
- 積立ルノ方法
- 重貨積載ノ方法
- 暴風ノ際船ヲ運轉シ或ハ不慮ノ災害ニ臨ミ之ヲ處置スルノ方法
- 日本海岸ノ地勢
- 船長
- 船長ノ受験人ハ二十三歳以上ニシテ少クトモ一ケ年間登簿噸

- 數一百以上ノ航洋船ニアリテ一等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
- 試驗問題 二等及一等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ
- 子午線ニ近キ太陽ノ高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 星象子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 地平儀ヲ用ヒテ測リタル太陽高度ノ改正
- 各種ノ方法ニ據リ本位羅針ノ自差ヲ定メ及那氏ノ式ニ從テ其圖ヲ製スルノ方法
- 難破ノ際人命ヲ救助スルノ方法
- 颶風ノ解明及ヒ之ヲ避ルノ方法
- 二等機關手
- 二等機關手ノ受験人ハ二十二歳以上ニシテ少クトモ四ヶ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ機關運轉ニ從事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト認ムル蒸機製造所ニアリテ少クトモ三ヶ年間蒸機及ヒ機關ノ製造又ハ修繕ニ從事シ且少クトモ一ヶ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ機關運轉ニ從事セシモノトス
- 試驗問題
- 通常文書ノ記載
- 加減乗除及ヒ比例法
- 機關室日誌ノ記載方
- 馬力ノ解明及ヒ算法

- 唧筒ニテ排出スル水量ヲ知ルノ算法
- 安全弁ノ種類、効用及ヒ算法
- 蒸機及ヒ機關ノ檢査並處置
- 蒸機各種ノ解明及ヒ其固定法
- 弁嘴ノ効用及ヒ諸管接合ノ方法
- 外輪及ヒ螺旋用高壓、低壓及ヒ聯成機關ノ解明及ヒ其運轉ノ方法
- 蒸機及ヒ機關ノ損所ヲ修繕スルノ方法
- 蒸機及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法
- 沸溢、蒸熱ヲ起スノ原因ヲ熟知シ及ヒ之ヲ回復スルノ方法
- 驗温器、驗氣器、驗鹽器ノ効用及ヒ用法
- 一等機關手
- 一等機關手ノ受験人ハ二十三歳以上ニシテ少クトモ一ヶ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ二等機關手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
- 試驗問題 二等機關手ノ試驗問題ヲ合セ
- 面体ノ求積及ヒ開平法
- 蒸機ノ強弱ヲ知ルノ算法
- 膨脹力ノ効用及ヒ其算法
- 指壓器ノ用方及ヒ之ニ據リ實馬力ヲ知ルノ算法
- 螺旋ノ勾配及ヒ其角度ヲ求ムルノ算法
- 製造ノ爲メ蒸機及ヒ機關ニ於ル局部ノ製圖

- 加熱器ノ種類及ヒ其効用
- 滑機及ヒ車軸ノ位置ヲ正シ之ヲ裝置スルノ方法
- 蒸機及ヒ機關ニ於ケル肝要ナル部分ノ割合
- 第七條 乙種免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載スル各款ニ從ヒ履歷アルモノニシテ其試驗問題ニ應答スヘシ

二等運轉手

二等運轉手ノ受験人ハ二十歳以上ニシテ少クトモ六ヶ年間海上ニアリテ船舶ノ運航ニ從事シ内少クトモ三ヶ年間西洋形航洋船ニアリシモノトス

試驗問題

- 通常文書ノ解讀
- 加減乗除
- 羅針ノ解明
- 揚帆卸帆及諸帆ヲ整頓スルノ方法
- 船貨積載ノ方法
- 測程線ノ尺度其用法及ヒ沙漏ノ時限
- 大小測鉛ノ重量其線ノ尺度符號及其用法
- 海上衝突豫防規則
- 海員雇入雇止規則
- 一等運轉手
- 一等運轉手ノ受験人ハ二十二歳以上ニシテ少クトモ七ヶ年間海上ニアリテ船舶ノ運航ニ從事シ内少クトモ四ヶ年間登簿

數一百以上ノ航洋船ニアリシモノトス

試驗問題

- 航海日誌ノ記載方
- 航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マテノ鐵路航程ニ羅針ノ偏差自差風壓流潮ヲ加減シテ本船所在ノ經緯度及ヒ直航距離方位ヲ知ルノ算法
- 太陽出沒方位ニ據リ羅針ノ誤指ヲ知ルノ算法
- 羅針ニ據リ仰角燈臺等ノ方位ヲ測リ又ハ經緯度ニ據リ海圖上ニ本船所在ノ位置ヲ記シ及ヒ偏差自差ヲ加減シテ鐵路ヲ定メ航程ヲ測ルノ方法
- 順轉逆轉縮帆及ヒ出入港運轉ノ方法
- 重貨積載ノ方法
- 萬國信號法
- 船長
- 船長ノ受験人ハ二十五歳以上ニシテ少クトモ二ヶ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ一等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
- 試驗問題 二等及ヒ一等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ
- 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 時辰儀ト太陽高度トニ據リ經度ヲ知ルノ算法
- 六分儀ノ用法及ヒ動鏡地平鏡等ノ位置ヲ正シ太陽又ハ地平線ニ據リ器差ヲ求ムルノ方法

- 暴風ノ際船舶ヲ運轉シ及ヒ不慮ノ災害ニ臨ミ之レヲ處置スルノ方法
- 颶風ノ定則及ヒ之レヲ避ルノ方法
- 日本海岸ノ地勢
- 二等機關手
- 二等機關手ノ受験人ハ二十二歳以上ニシテ少クトモ五ヶ年間船用機關運轉ニ従事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト認ムル汽機製造所ニアリテ少クトモ三ヶ年間汽機及ヒ機關ノ製造又ハ修繕ニ従事シ且ニ二ヶ年以上船用機關運轉ニ従事セシモノトス
- 試験問題
- 通常文書ノ解讀
- 加減乗除
- 機關室日誌ノ記載方
- 汽機及ヒ機關ノ檢査並處置
- 運轉中汽機及ヒ機關ニ於ケル注意
- 安全瓣ノ種類効用及ヒ其重量ノ増減
- 汽罐及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法
- 瓣嘴ノ効用及ヒ諸管接合ノ方法
- 汽罐及ヒ機關ノ部分ニ生セル損所ヲ假リニ修繕スルノ方法
- 沸溢、擦熱ヲ生セルキ之ヲ回復スルノ方法
- 驗温器、驗氣器、驗鹽器ノ効用及ヒ用法
- 一等機關手

- 一等機關手ヲ受験人ハ二十五歳以上ニシテ少クトモ二ヶ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ二等機關手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
- 試験問題
- 二等機關手ノ試験問題ヲ合セ
- 馬力ノ解明及ヒ算法
- 汽罐各種ノ解明及ヒ安全瓣ノ算法
- 外輪及ヒ螺旋用高壓、低壓及ヒ聯成機關ノ解明及ヒ其運轉ノ方法
- 膨脹力ノ解明及ヒ算法
- 加熱器ノ効用及ヒ其種類
- 汽罐及ヒ機關中肝要ナル部分ノ割合
- 第八條 小形船機關手ノ免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載スル履歴アルモノニシテ其口上試験問題ニ應答スヘシ
- 小形船機關手
- 小形船機關手ノ受験人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ三ヶ年間船用機關運轉ニ従事セシモノトス
- 試験問題
- 通常ノ讀書
- 汽罐及ヒ機關ノ檢査並處置
- 運轉中汽機及ヒ機關ニ於ケル注意
- 安全瓣ノ効用及ヒ其重量ノ増減
- 汽罐及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法

○ 竈鐘及ヒ機關ノ部分ニ生セル損所ヲ假リニ修繕スルノ方法
 ○ 沸溢及ヒ擦熱ヲ生セシトキ之ヲ回復スルノ方法
 第九條 乙種免狀若シハ從前ノ假免狀ヲ受有シ既ニ一ケ年以上
 其職ヲ執リシ者ハ甲種ニ於テ同等ノ試験ヲ出願スルヲ得ヘシ
 第十條 甲種ニ從テ試験ニ於テ其紙上ノ答ヲ爲スノ時限ハ五時
 間ト定メ乙種ノ時限ハ三時間ト定ム若シ此時限ヲ過キテ其答
 ナ畢ラサレハ之ヲ落第者ト爲スヘシ

第十一條 受験人ハ書籍及ヒ書留類ヲ携帯シテ試験場ヘ入ルヲ
 許サス

第十二條 船長及ヒ運轉手ノ受験人ハ平生各自ノ熟知セル算式
 及ヒ航海表ヲ用ヒテ問題ニ答フルハ妨ケナシ故ニ自己ノ慣用
 セル表ニ限リ試験場ニ携帯シ得ヘシ

第十三條 受験人若シ他ノ受験人ノ文案ヲ竊取シ或ハ助力ヲ授
 受シ其他如何ナル手段ニ據ルモ出場中他ノ受験人ト往復セシ
 コト發覺スルニ於テハ之レヲ落第者トナスヘシ

第十四條 紙上ノ問題ニ應答スルニ方リ其問題ノ總數三分一ヨ
 リ以上ノ誤算アルモノ又ハ問題中ノ算法ヲ解シ得サルモノハ
 落第者トナスヘシ然レトモ其誤算問題ノ總數三分一ニ止ルト
 キハ之ヲ改正セシメ其正算ヲ得ルモノハ紙上ノ試験ニ於テ及
 第者トナスヘシ

第十五條 受験人紙上ノ試験ニ落第スルコト三回ニ及フトキハ
 其最後落第ノ日ヨリ三ヶ月以上ヲ經ルニ非サレハ再試ヲ許サ

ス又口上ノ試験ニ落第スルコト三回ニ及フトキハ其最後落第
 ノ日ヨリ六ヶ月以上實地修業セルノ確證アルニアラサレハ再
 試ヲ許サス

第十六條 受験人紙上及ヒ口上ノ問題ニ正シク答ヘ畢ルトキハ
 司驗官ヨリ直ニ及第證書ヲ本人ニ附與シ其旨ヲ農商務省ヘ報
 告スヘシ

農商務省ニ於テハ其報告ニ據リ受験人及ヒ司驗官ノ氏名ヲ簿
 冊ニ登記シ應等ノ免狀ヲ授與スヘシ

○ 大坂海員試験所ヘ志願者出願方第十五年十二月
 今般大坂府下ヘ海員試験所ヲ設置シ内國人ニ限リ毎月第二第四
 ノ火曜日ヲ以テ試験執行候條志願ノ者ハ明治十四年十一月第一號
 布達西洋形船舶長運轉手機關手試験規程ニ依リ同所ヘ願出ツヘシ
 但開場日限ノ儀ハ農商務省ヨリ廣告スヘシ

○ 西洋形船舶水先免狀規則 明治十一年十二月
 第三十七號布告

沿革略記 明治九年十二月第百五十四號布告ヲ以テ西洋形船舶水
 先免狀規則ヲ制定ス○十一年十二月第三十七號布告
 ナリ前令ヲ改正ス是レ現行法ナリ

明治九年^{十二月}第百五十四號布告西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改正候條此旨布告候事

(別冊)

西洋形船水先免狀規則

第一條 明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ

第二條 水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ農商務省ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明カナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ(十四年第四十三號布告ヲ以テ内務省ヲ農商務省ト改ム以下之ニ依フ)

第三條 免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ交付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ交付スヘシ

第一 東京灣

即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮港ヲ通過シテ安房國野島岬ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第二 和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國潮崎ノ仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス

第三 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四 長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王島ノ極北ヲ通過シ同國沖島及ヒ香燒島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第五 津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛崎ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡島國白神崎ニ至ル一線ヲ以テ其西界

トス

第四條 各海港即チ水先區内ニ供備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其海港即チ水先區ノ現況ニ從フヘシ

第五條 水先人ノ免狀ヲ出願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀ニ係リ確實ナル履歷證書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ農商務省ヘ差出シ置キ或ハ試験開場ノ時ニ於テハ直ニ司驗官ヘ差出スヘシ

第六條 水先人タル者ハ年齡二十二歳ニ滿チ少クモ一ケ年間ハ一百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者若クハ六ケ年間航海ニ從事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許ヲ受ケントスル水先區内ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ從事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇泊場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ル爲メノ重立タル記標或ハ方位又ハ潮ノ満干潮流燈光浮標礁標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉

スルニ充分適當セリト司驗官ヲ満足セシムルヲ要スヘシ

第七條 受験人試験ヲ受ケテ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト司驗官之ヲ認ムル時ハ其旨ヲ農商務省ニ報告シテ直ニ免狀ヲ交付スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス

第八條 免狀ノ書替ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ農商務省ヘ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セサルトハ都テ農商務省ノ意見ニ因ルヘシ

第九條 免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ農商務省ヘ差出シ書替新免狀ヲ申請クヘシ

第十條 水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ル時金拾圓又其書替毎ニ金壹圓ノ手数料ヲ上納スヘシ

第十一條 水先人ノ試験ヲナス時ハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フヘキ人數ノ限り及ヒ試験ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

第十二條 試驗出願人ノ履歷證書ヲ以テ充分満足ノモノト爲ル時ハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之カ試驗ヲナスヘシ

第十三條 此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限リ日本帝國内何レノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地ヘ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

第十四條 第三條ニ規定セル水先區内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルモ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲナサント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナスモ何時ニテモ免許水先人ヘ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラサル免狀ヲ用ユル者ハ五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第十五條 水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス但シ表中記載セサルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ムヘシ

十四年第七十二號布告前
例處斷方參看第十四類ニ
載ス

第十六條 二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號ヲナスモハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ

第十七條 免許水先人水路嚮導専用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ其免狀ヲ農商務省ニ願出ツヘシ農商務省ハ檢査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀同様其効一ケ年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願出ヘシ

第十八條 各免許水先船ハ免許ヲ得タル區域内ニ於テ其水路嚮導用ノ爲ニハ港灣稅噸稅燈臺稅等ノ諸稅ヲ免スヘシ

第十九條 各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

- 第一 水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ
- 第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水先船ノ文字並ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ
- 第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乗込アル時ハ桅上或ハ船首或

ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日没マテ
水先旗ヲ翻揚スヘシ但シ水先旗ハ明治十年一月甲第一號
海軍省布達ニ照準スヘシ

第四 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用
フル燈火ヲ掲ケス只楫頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白
燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個
又ハ數個ヲ發スヘシ(十三年第三十九號布告ヲ以テ本項改正)

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト
同様ノ燈火ヲ掲ケヘシ(十三年第三十九號布告ヲ以テ本項改正)

第二十條 日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スル時ハ水先ヲ要求
スルノ信號ト認ムヘシ

第一 前檣ニ於テ其船ノ船首旗英語「ジャック」又ハ國旗ヲ掲揚スル

第二 萬國普通ノ水先信號「P.T」ノ符字ヲ掲示スル

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要求

スルノ信號ト認ムヘシ

第一 十五分時毎ニ青燈ヲ掲出スル

第二 須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板
ノ舷部ニ於テ射發スル

第二十一條 各免許水先人ヘハ其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツ、
交付スヘシ故ニ其筋ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閲覽ヲ要スル時
ハ直ニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒ム時ハ農商務省ニ於テ其執業ヲ停
止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十二條 此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與シ
或ハ讓與スル時ハ農商務省ニ於テ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十三條 農商務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪ヘサルカ
若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルヲ嫌
ヒ若クハ之ヲ怠リタルヲアリト思惟スル時ハ同省ヨリ吏員ニ命シ
テ之ヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上

クヘシ

(水先料一覽表略之)

○西洋形船海員雇入雇止規則明治十二年二月第九號布告

西洋形船海員雇入雇止規則別冊之通相定來ル八月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事(十三年第十號布告ヲ以テ西洋形商船ヲ西洋形船ト改ム以下倣之)

(別冊)

西洋形船海員雇入雇止規則

第一條 西洋形船(蒸氣船ハ拾噸以上風帆船ハ貳拾噸以上)ニ於テ海

員ヲ雇入又ハ雇止ヲ爲ス時ハ總テ此規則ノ條款ニ準據スヘシ

第二條 雇入ノ時ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ農商務省ヨリ發スル海員雇入證書用紙ヲ以テ其定約書ヲ作り雇者被雇者記名調印ノ上

浦役人ノ公認ヲ受クヘシ(十四年第四十三號布告ヲ以テ内務省ヲ農商務省ト改ム以下倣之)

但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保テ置キ副書ハ浦役場ニ止メ置クヘシ

第三條 内海回漕船ニ於テハ雇入期限ヲ六ヶ月以内ト定ム然レモ外國航船ニ於テハ六ヶ月以外ヲ約スルヲ得ヘシ

第四條 雇止ノ時雇者ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ農商務省ヨリ發スル海員雇止證書用紙ヲ以テ雇止證書ヲ作り記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受ケ之ヲ其被雇者ニ付與スヘシ

雇入又ハ雇止ノトキ技術免狀ヲ所持スルモノハ浦役人ノ檢査ニ供シ且其檢査證書ヲ申受ヘシ(十六年第四十五號布告ヲ以テ本項追加)

雇入又ハ雇止ノ公認ヲ受クルトキハ手数料トシテ被雇者給金一月分ノ百分一ニ當ル金額ヲ雇者被雇者ヨリ各其半額ツ、浦役場ニ納ムヘシ(十六年第四十五號布告ヲ以テ本項追加)

雇入定約書及ヒ雇止證書ヲ亡失毀損シ其寫ヲ乞フ者ハ二名以上ノ

保證人ト連署シテ當初公認ヲ受ケタル浦役場ニ申出ヘシ浦役人ハ簿冊ニヨリ之ヲ製シ認印ヲ捺シテ交付スヘシ(十六年第四十五號布告ヲ以テ本項追加)

第五條 雇止ハ雇入地ニ限り行フヘシ故ニ雇入地外ニ於テ滿期ニ至ルモ雇入地ニ歸着スル迄ハ雇入期限内ト見做スヲ得ヘシ

但雇者被雇者雙方ノ協意ヲ以テスルモノハ本條ノ限りニアラス

第六條 左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ハラス雇者ヨリ雇止ヲナスヲ得ヘシ

一 疾病又ハ體質痿弱ノ故ヲ以テ本務ヲ執行シ能ハサル者

一 本船難破其他ノ災厄ニ罹リ進航シ能ハサル時

但以上二項ノ場合ニ於テハ雇者ノ費用ヲ以テ雇入地へ歸還

セシムヘシ

一 第十條ニ掲クル違約一ヶ月内三回以上ニ至ル者

一 第十一條ヲ犯ス者

第七條 又左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ハラス被

雇者ヨリ其定約ヲ解クヲ得ヘシ

一 苛虐ノ取扱ヲ受ケシ時

一 飲食物又ハ給金ノ全額或ハ幾分ヲ給與セラレサル時

但右ノ場合ニ於テハ雇入地へ歸着ノ旅費ヲ請求スルヲ得ヘシ

第八條 外國ニ於テ雇入若クハ雇止ヲ爲ス時ハ其國駐留ノ我國領事館ニ於テ農商務省ヨリ發スル用紙ヲ以テ定約書若クハ雇止證書ヲ

作り記名調印ノ上領事ノ公認ヲ受クヘシ

但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保キ置キ副書ハ領事館ニ止メ置クヘシ

第九條 新メニ海員トナル者及ヒ此規則施行以前雇止トナリシ者ヲ

除クノ外被雇者ハ必ス最後ノ雇止證書ヲ所持スヘシ又雇者ハ最後

ノ雇止證書ヲ所持セサル者ヲ雇入スヘカラス

第十條 船長ノ指圖ニ背ク者許可ヲ得スシテ上陸シ又ハ許可ノ時限

ヲ過キテ歸船スル者(第十一條ノ脫船者ニアラス)本務ヲ怠ル者喧嘩口論ヲナス者酩酊スル者私ニ銃器刀槍或ハ酒類ヲ船中ニ貯フ者ハ毎回其給金三日分ヨリ多カラサル額ヲ違約金トシテ雇主之ヲ收メ且其銃器刀槍或ハ酒類ヲ取上クルヲ得ヘシ

第十一條 船中ニ於テ徒黨ヲ謀ル者船長ヲ劫ス者脫船スル者(雇入期限内ニ逃亡スル者ヲ云フ)ハ其事情ニ因リ百日以内ノ懲役ニ處ス若シ船体船具ヲ毀傷シ又ハ載貨ヲ私用スル者ハ其實價ヲ償ハシムルノ外本條ニ依テ其罪ヲ科スヘシ

第十二條 海員ヲ虐使シ飲食物或ハ給金ノ全額又ハ幾分ヲ給與セサル者ハ其事情ニ因リ百圓以内ノ罰金ヲ科シ其給與セサル金額ハ年六分ノ利子ヲ加ヘ償還セシムヘシ

第十三條 此規則中第十條第十一條第十二條ヲ除キ其他ノ諸條款ヲ犯ス者ハ其事情ニ因リ五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

十四年第七十二號布告別處斷方參第百十四類ニ載ス

○海員雇入雇止手数料及事務取扱費收支方第十六年三月二十二號今般第四十五號布告候ニ付テハ雇入雇止手数料ハ大藏省へ納付可致尤右事務取扱ニ係ル費用ハ同省ヨリ別途交付候條明細仕譯書ヲ以テ同省へ受取方可申出此旨相達候事

但本文收支金額ノ儀ハ明細仕譯書ヲ以テ毎三ヶ月分取纏メ翌月十日其地差立農商務省へ届出ヘシ

○海員雇入雇止證書用紙定價十二年六月丙第三十四號本年第九號ヲ以テ西洋形船海員雇入雇止規則公布相成候就テハ本則ニ依リ當省ヨリ發行スル雇入雇止證書用紙ハ各浦役場等ニ於テ左ノ定價ヲ以テ拂下可申依テ爲心得別紙離形相付シ此旨相達候事

但本文用紙拂下代金ノ儀ハ毎年六月十二月ノ兩度ニ取纏メ明細書相添へ當省へ可相納事

海員雇入證書用紙 定價金四錢
同 雇止證書用紙 同 金貳錢

(離形略之)

○海員雇入證書用紙定價十二年十一月十五號本年六月當省丙第三拾四號ヲ以テ西洋形船海員雇入雇止證書發行ノ儀相達候處尙少數ノ人員雇入便宜ノ爲メ更ニ別紙離形ノ通リ雇入證書發行候條右用紙ハ各浦役場ニ於テ左ノ定價ヲ以テ拂下可申此旨相達候事
海員雇入證書用紙 定價金貳錢

(離形略之)

○内國郵船ニ乗組旅行ノ者姓名登記方明治九年三月第三十壹號布告

内國郵船ニ乗組旅行致シ候者ハ其船長又ハ其所持主ニ於テ航海ノ度毎ニ各人ノ姓名住所并ニ何地迄赴ク旨ヲ詳細ニ登記シ置キ何時ニテモ其筋ヨリ取調候節差支無之様可致此旨布告候事

○外國船乗込規則明治九年三月第三十號布告

沿革略記 明治元年六月士商人ヲ論セテ諸港ヨリ外國船ニ乗込者必ク其地府縣ノ證書ヲ受テシム○五年八月第二百二十八號達ヲ以テ外國船ニ乗込ニ内地各港間航海スル者

ノ乗込免狀ヲ廢ス○九年三月第三十號布告ヲ以テ再ヒ外國船乗込規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

外國船ニ乗込旅行セントスル者取締ノタメ左ノ通規則相定候條此旨布告候事

外國船乗込規則

第一條 外國船ニ乗込旅行セントスル者ハ出船當日或ハ一日前其屬籍住所姓名及ヒ何國人所持船何號ニ乗込何港迄赴ク旨ヲ具シタル届書ヲ其出船スル地ノ廳ニ差出シ乗船證書ヲ受クヘシ

第二條 乗船證書ハ壹人壹枚タルヘシ

第三條 乗船證書ヲ受取ルニハ壹枚ニ付手数料トシテ金拾錢ヲ納ムヘシ(九年第六十壹號布告ヲ以テ手数料料貳拾五錢トアルヲ拾錢ト改ム)

第四條 乗船證書ハ每人親ヲ出廳シテ受取ルヘシ代人ヲ以テスルヲ許サス

第五條 乗船證書ハ着港上陸ノ上其地警察官吏ニ返付スヘシ其途中

一時上陸 例ハ横濱港ヨリ長崎港ニ到ル者其船舶神戸港 スル者ハ其地臨檢警察官吏ニ其證書ノ檢閲ヲ受クヘシ

第六條 乗船證書ハ一度ノ出船ニ用フルモノトス故ニ途中ヨリ上陸スル歟又ハ事故アリテ乗込ヲ止メ更ニ他ノ船ニ乗込歟又ハ同船タリトモ他日航海ノ便ニ乗込ム時ハ最初受取タル證書ハ其出船スル地ノ廳ニ納メテ更ニ證書ヲ受取ルヘシ

十四年第七十二號布告
例處方登載以下做之第
十四類ニ載ス

第七條 乗船證書ヲ所持セスシテ乗船シタル者ハ上陸ノ節違式ニ照シテ處分スヘシ

第八條 開港場アル地方廳ニ於テハ外國船ニ乗込ントスルノ届書ヲ差出ス者アル時ハ第一條第四條ノ手續ニ相違ナキヤテ檢閲シ別紙雛形ノ證書ヲ直ニ本人ニ相渡シ手数料ヲ領收スヘシ

第九條 右地方廳ハ兼テ船場ノ要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港毎ニ若干員ヲ臨檢セシメ内國人ノ乗船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々檢閲シ若シ證書ヲ所持セサル歟又ハ其證書最

前ノ出船ニ請取リタルヲ其儘再用シタル歟ヲ視認メタル時ハ詳カニ其所由ヲ取糺シ證書所持セサル者ハ乗船證書ヲ受取ル手續ヲナサシメ或ハ其乗込ミヲ止ム證書ヲ再用スル者ハ違式ニ照シテ處分スヘシ

第十條 警察官吏乗船證書ヲ臨檢シ著港上陸者ノ分ハ之ヲ領收シ一時途中上陸者ノ分ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ
(證書雛形略之)

○ 海外旅行手續 明治十一年五月 第九號布告

明治二年四月同三年正月布告海外行印鑑免狀渡方ノ儀及同九年十月第百二十八號布告中海外行免狀ノ廢止候條自今外務省本年一月第一號布達海外旅券規則ニ照準スヘシ此旨布告候事

○海外旅券規則明治十一年二月
外務省第一號布達
從來當省ヨリ發行候海外行免狀之儀海外旅券ト改稱別紙規則相
定候條此旨布達候事

(別紙)

海外旅券規則

旅券ハ日本國民タルヲ證明スルノ具ニシテ海外各國ニアリテ要用
少ナカラサルヲ以テ外務省ヨリ之ヲ發行ス規則左ノ如シ

第一條 旅券ヲ請フ者ハ別紙雛形ノ書面ヲ以テ外務省又ハ海港
場官廳へ願出之ヲ受取ルヘシ右郵便ヲ以テスルモ皆シカラス
旅券ヲ受取ラハ直ニ其示シアル所へ當人姓名ヲ自記スヘシ

第二條 旅券ヲ受クルモノハ手数料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ
但旅券ハ一人一枚ニ限ルヘシ若シ五歳以下ノ小兒其父母同道
ナルハ其父母ノ旅券ニ附記スルヲ以テ足レリトス

第三條 内地ニ於テ右旅券受取ル間合之ナキカ又ハ海外ニ於テ
遺失シタルカノトキハ其國在留ノ日本公使館又ハ領事館へ其
趣ヲ記載セル書面ヲ出ダシ自身出頭シテ願ヒ受クヘシ但其手
數料トシテ金貳圓ヲ納ムヘシ

第四條 公用ヲ以テ旅行シ官費ヲ以テ留學スル者ハ内地ニアリ
テハ其官廳ヨリ直ニ外務省ニ掛合海外ニ在リテハ前條ノ趣ニ
從ヒ旅券ヲ受取ルヘシ但手数料ハ納ムルニ及ハス

第五條 旅券ハ其趣クヘキ國ノ公使又ハ領事ノ證明ヲ得ル儀其
國ニヨリ要用少ナカラス其節ハ其館ニ就テ直ニ之ヲ請フヘシ
但其定規ニ隨ヒ手数料ヲ拂フヘキモノトス

第六條 海外ニアリテ所持ノ旅券我領事官ノ證明ヲ要用トスル
コアリ其節ハ之ヲ請ヒ得ヘシ但領事官ナキ地ニ於テハ公使館
ニ到リテ之ヲ請フヘシ

第七條 旅券ハ歸朝以後三十日以内ニ其最初受取リタル官廳へ

之ヲ返納スヘシ郵船等ノ海員常ニ旅券ヲ要スル者ハ此限ニ在
ラス但シ海外ニアリテ我公使又ハ領事官ヨリ受取りタル者ハ
外務省ニ返納スルヲ以テ足レリトス

(旅券願雛形略之)

○朝鮮旅行者旅券出願方十一月三月布達
本年二月廿日第一號達海外旅券規則第一條外務省又ハ開港場管
廳ト掲載有之候處朝鮮國へ旅行候者ニ限リ左ノ縣廳へ願出旅券
受取候テ不苦候條此旨布達候事
廣島 山口 島根 福岡 鹿兒島 長崎縣嚴原支廳

十二年一月内務省上申ヲ
以テ長崎縣嚴原支廳ヲ廢
シ郡役所へ事務ヲ委任ス
十六年第五號達ヲ以テ長
崎縣支廳ヲ對馬國下縣郡
嚴原村ニ改メ

○第三類

○土地賣買讓渡規則 明治十三年十一月
第五十二號布告

沿革略記

明治五年二月第五十號布告ヲ以テ地所永代賣買ヲ許
シ人民ニ其所有權ヲ附ス○七年十月第四百四號布告ヲ
以テ地所買受ケ代金受取ノ證文アルモ地券申受ケサレハ買
主ニ其所有權ヲキモノトナシ是レカ罰例ヲ定ム○八年六月
第六百六號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス○同年十月第五百十三號
布告ヲ以テ家督相續或ハ贈遺等ニ由リ地所ヲ讓受クルモノ
ハ地券書換手續ヲ制定ス○十三年十一月第五十二號布告ヲ
以テ八年第六百六號布告及ヒ同年第五百十三號布告ヲ廢シ更
ニ土地賣買讓渡規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

土地賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條此旨布告候事

但明治八年第六百六號布告并同年第十第五百三十二號布告廢止候事

(別紙)

土地賣買讓渡規則

第一條 凡ソ所有ノ土地ヲ賣渡シ又ハ讓渡サント欲スル者ハ賣渡證

文ニ地券ヲ添ヘ其地ノ戸長役場ニ差出シ奥書割印ヲ受ケ之ヲ買受人又ハ讓受人ヘ附與スヘシ

但一筆ノ土地ヲ分割シテ奥書割印ヲ受ケント欲スル者ハ其分界及坪數等ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘテ差出スヘシ

第二條 戸長役場ニ於テハ豫メ土地賣買讓渡奥書割印帳ヲ備置キ奥書割印ヲ請フモノアレハ地所賣入書入奥書割印帳ヲ見合セ登記ナキニ於テハ讓渡證文ニ奥書割印ヲナスヘシ

第三條 買受人又ハ讓受人讓渡證文ヲ領收スルキハ地券裏書願書ニ雙方連印ノ土地券ヲ添ヘ戸長役場ヲ經テ管轄廳ヘ差出スヘシ

第四條 第一條ノ手續ヲ以テ其土地所有權ヲ移轉スルコトヲ得ト雖モ地租并地方稅ハ地券ニ記載セル姓名ノ者ヨリ之ヲ徵收スヘシ

但地券紛失ノ際下付願出ルモ亦地券ニ記載セル姓名ノ者タルヘシ

第五條 死亡者失踪者ノ家督相續若クハ遺產相續及離縁戶主ノ家督

十四年第七十二號布告
例
地券
稅則
ハ
第四類ニ
載ス

相續ニ由リ土地ヲ讓受ケタル者ハ親族親族ナキモノ近隣ノ戶主上連印ノ上戸長役場ヲ經テ地券裏書願書ヲ管轄廳ヘ差出スヘシ若シ家督相續又ハ遺產相續ノ日ヨリ六箇月以内ニ戸長役場迄之ヲ差出サ、ル者ハ證印稅五倍ノ科料ニ處ス

但本條期限内ニ地券裏書願書ヲ差出ス能ハサル事由アリテ之ヲ届出ル者ハ此限ニアラス

○土地分割取扱手續第十五年一月
明治十三年十一月第五十二號布告土地賣買讓渡規則第一條但書ノ義ニ付左ノ通取扱手續ヲ定ム

土地分割取扱手續
第一條 賣買讓渡等ノ爲メ一筆ノ土地ヲ分割シテ奥書割印ヲ受ケ地券書換ヲ請ハント欲スルモノハ境界ヲ明瞭ニシテ其反別ヲ正シ地位ノ優劣ニヨリ全筆ノ地價ヲ分配シ其書面ヲ戸長役場ニ差出スヘシ

第二條 戸長ハ實地ヲ檢シ不都合ナキ時ハ奥書割印ヲナシ若シ反別地價ノ配分上不適當ノモノアリト認ル場合ニ於テハ其旨ヲ説諭シ願人承服セサル時ハ其意見ヲ付シ郡區役所ヲ經テ管

轉廳ニ具申スヘシ

第三條 該廳ニ於テ前條ノ具申ヲ受ル時ハ更ニ實地ヲ審査シ分界ヲ檢シ坪數地位ニ適スル地價ヲ定メ其旨本人ニ申達シ與書割印ヲ受クルノ手續ヲナサシムヘシ

但賣買讓渡ニアラスシテ自己ノ都合ニヨリ一筆ノ土地ヲ分割スルモ前條々ノ例ニヨルヘシ

○公用土地買上規則明治八年七月 第三百三十三號達

今般公用土地買上規則別紙ノ通相定候條右規則中人民ニ告知スヘキ條件ハ其廳ヨリ布達可致此旨相達候事

(別紙)

公用土地買上規則

第一則 公用土地買上下ハ國郡村市ノ保護便益ニ供スルタメ院省「使」廳府縣ニ於テ人民所有ノ土地ヲ買上ルヲ云フ

但國郡村市ノ保護便益ニ供スル爲メ人民ニテ鑛道電線上水等ノ大土工ヲ起ス時ハ其事業ニヨリ特別官許ノ上此規則ニ準スルヲ得ヘシ

第二則 公用買上ハ必ス其地ヲ要セサルヲ得サルニアラサレハ之ヲ行ハサルモノトス故ニ人民之ヲ拒ムヲ得ス

但其地ニ屬シタル植物建造物等モ亦本文ニ同シ

第三則 院省「使」ニテ公用土地買上ヲ要スルキハ左ノ事由ヲ内務省ニ照會シ内務省ヨリ地方官ニ諮詢シテ差支ナキ旨ノ回答ヲ得タル上該廳ヨリ太政官ニ上陳允裁ヲ得ルモノトス
廳府縣ニテ公用土地買上ヲ要スルキハ左ノ事由ヲ具狀シテ内務省ニ稟請シ内務省ヨリ太政官ニ上陳シ允裁ヲ得ルモノトス
内務省ニ照會又ハ稟請スヘキ事由左ノ如シ

- 一 土地ヲ買上ルノ事由
- 一 該地ヲ必需スルノ事由

一 某管轄國郡村市

一 該地ノ番號

一 該地ノ字

一 該地ノ地種

一 該地ノ地主

一 東西何程南北何程

一 方積何程

但該地ノ實測圖ヲ添ル者トス實測圖ハ近傍ノ地形ヲモ略記スヘシ

第四則 公用ノタメ買上ル地價ハ券面ニ記シタル代價タルヘシ然レ

ニ地價相違ヲ生セシ時ハ所有者ト買上ヘキ該廳トノ商議ヲ以テ代價増減スルコトアルヘシ

但明治五年二月十四日以前潰地又ハ用地申付爲手當作德米等ヲ渡シ來リタル土地ハ同年ヨリ同七年迄三ケ年ノ貢納石代平均ノ

價ヲ以作德米七ケ年半ノ金額ヲ一時ニ下渡シ買上ルモノトス

(八年第六百六十號達)
ヲ以テ但書追加)

第五則 買上ヘキ土地ニ屬シタル植物建造物等ヲ併セテ買上ルルハ地價ノ外別ニ植物建造物等ノ代價ヲ渡スヘシ其代價ハ所有者ト買上ヘキ該廳トノ協議タルヘシ

第六則 買上ヘキ土地ニ屬シタル植物建造物等ヲ買上ケサルルハ地價ノ外別ニ植物建造物等ノ轉移料ヲ渡スヘシ轉移料ハ所有者ト土地ヲ買上タル該廳トノ協議タルヘシ

第七則 土地ヲ買上ヘキ該廳ハ植物建造物等ヲ買上クルコトヲ要セスト雖ニ人民植物建造物等ヲ併セテ買上ンコトヲ求ムルルハ第五則ノ通タルヘシ

第八則 土地植物建造物等ノ買上代價及轉移料ノ見込所有者ト該廳ノ間ニ許多ノ差違ヲ生シ熟議ニ至リ難キハ雙方ヨリ評價人各壹人ヲ出シ地方官之ヲ折衷シテ内務省ノ決ヲ請ヒ之ヲ定ムルモノト

ス

第九則 地方官土地及ヒ植物建造物等ノ買上ヲ公達シタルキハ直ニ買上代價ヲ渡スヘシ

第十則 人民買上代價ヲ受取タルキハ買上ラレタル土地植物建造物等ヲ三十日以内ニ渡スヘシ然レモ買上前ニ該廳ト別段ノ契約ヲ結ビタルハ特別トス

第十一則 土地買上ノ際事業ノ急施ヲ要スルトキハ特ニ其旨ヲ所有者ニ達シ三十日以上ノ期日ヲ定メ代價ヲ申出シムヘシ其期日迄ニ代價ヲ申出サルカ又ハ代價ニ付雙方見込相協ハサルトキハ更ニ建物アル地ハ三十日以上建物ナキ地ハ十日以上ノ期日ヲ定メ其期日迄ニ之ヲ引渡スヘキ旨ヲ達スヘシ但各其期日内ニ雙方共現在ノ實況及ヒ其見込ノ代價ヲ詳記シ評價人ノ意見書ヲ添ヘ地方官ノ認印ヲ受置クヘシ(十五年第六十四號達ヲ以テ追加)
第十六年第五十號達ヲ以テ改正)

ハ券面地價十分八ノ金額建造物等ノ移轉料又ハ代價ニ付テハ假定ノ金額地方官實況ニヨリヲ渡置キ代價決定ノ上精算スヘシ(十五年第六十四號達ヲ以テ追加)

○官省ニ於テ土地ヲ要スルキ取扱方十年十二月十九日第百十三號達
院省使ニテ官用ノ爲メ土地ヲ要スルトキハ八年太政官第百三拾貳號達公用土地買上規則第三則ニ依リ所用應ヨリ當省ニ照會相成候得者當省ニ於テ實地差支有無等諮詢致來候處自今便宜ノ爲メ所用應ヨリ直ニ地方官ニ協議シ實地差支等無之上當省ニ照會相成候得者當省ニ於テハ地方官ヨリ所用應ヘノ回答書ニ據リ別ニ諮詢不致候條所用應ヨリ協議相成候節ハ右規則ニ據リ無遺漏取調民有地ノ分ハ差支有無相答可申尤官有地ニ係ル分ハ實地差支有無取調ノ上當省ニ協議可相成旨相答置キ同時當省ニモ可申出此旨相達候事
但官有ノ建物立木有之節ハ相當代價本文同様取調候儀ト可相心得事

○北海道土地賣貸規則 明治五年十月
第三百四號布告

北海道開拓創業以來募移自移ノ徒日月ニ増加今日ニ至リテハ運漕行旅モ不便トセス然ルニ元ヨリ曠莫ノ地ナレハ肥沃多産ニシテ廢棄スル者猶十ノ八九ニ居レリ因テ今度全道間曠ノ地低價賣下緩期除租等ノ規則別紙開拓使布告ノ通施行セシムル條墾闢牧畜或ハ漁獵採鑛都テ生産興工ノ志願有之者ハ同使ヘ可申出事

(別紙)

北海道土地賣貸規則

第一條 原野山林等一切ノ土地官屬及ヒ從前拜借ノ分目下私有タラシムル地ヲ除ノ外都テ賣下ケ地券ヲ渡シ永ク私有地ニ申付ル事
第二條 賣下ノ地一人十萬坪ヲ以テ限トシ下手後十ケ年除租タルヘシ尤モ已ニ私有シタル地ヲ相對賣買スル者ハ其坪數制限ナカルヘキ事

第三條 賣下ノ地價上等千坪壹圓五拾錢中等同壹圓下等同五拾錢千坪以下其割合タル可ク且其地代即納タルヘシト雖モ家産中人以下

或ハ罹災窮乏ノ者ハ三年乃至五年賦上納申付ル儀モ可有之事

第四條 既ニ私有スルノ土地ハ牧畜開墾等一切ノ産業ハ勿論他人ヘ賣却スルモ其地主ノ自由タルヘシ尤右等下手スル節ハ水利運便等ノ上ニ注意シ其方法及ヒ期限等詳細ニ可申出事

第五條 人民私有ニ屬スル土地ト雖モ外國人ヘ賣渡シ或ハ之ヲ引當トシテ金子ヲ借受ル等禁止タルヘキ事

第六條 土地買下ノ後開墾其他共上ノ地ハ十二ケ月中ノ地ハ十五ケ月下ノ地ハ二十ケ月ヲ過キ不下手者ハ上地申付ル事

第七條 除租滿期後ノ制程ハ追テ其地ノ差等ニヨリ適當ニ可相定事

第八條 採鑛漁獵等都テ生産興工ノ見込アリテ出願スル者ヘハ其方法取調年限ヲ立貸地等ニ差出シ稅則ハ出品ノ精粗多寡ニ隨ヒ追テ適當ニ可相定事

但諸鑛山脉理等ノ甲乙ハ查了シテ可公布事

第九條 右等諸工業ノ新發明或ハ水陸運便等ニ費財盡力シテ國家人民ノ利ヲ興シタル者ヘハ其功業ノ大小輕重ニ因リ若干ノ土地ヲ付與シ或ハ專賣除租ノ榮利ヲ與ル等ノ處置可有之事
右之通候事

壬申九月

開拓使

○ 地所質入書入規則 明治六年一月十八號布告

先般田地永代賣買被差許候ニ付自今質入書入致シ候節ハ左ノ規則ノ通可相心得事

六年第三百六號布告不効
產事入金穀貸借規則參看
本類ニ載ス

地所質入書入規則

第一條 金穀ノ借主_{地主}ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主_{金主}ニ地所ト證

文トシテ渡シ貸主其作德米ヲ以テ貸高ノ利息ニ充候ヲ地所ノ質入ト云フ

第二條 金穀ノ借主_{地主}ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主_{金主}ニ地所引當ノ證文ノミヲ渡シ借主ノ作德米ノ全部又ハ一部ヲ貸主ニ渡シ利息ニ充候ヲ書入ト云フ

第三條 金穀ノ借主_{地主}ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主_{金主}ニ地所引當ノ證文ノミヲ渡シ借主ヨリ其利息トシテ米又ハ金ヲ拂ヒ候ヲモ亦書入ト云フ

第四條 地所ヲ質入ニ致シ候節ハ地券ヲモ相渡シ可申其年期ノ儀ハ三ケ年ヲ限ルヘシ尤三ケ年以下期限取極候儀ハ勝手タルヘク且ツ年限取極候廉ハ判然證文面ニ記載致シ置可申事

但書入ノ儀ハ地券ヲ相渡スニ及ハス其年限長短共本文ノ限ニアラスト雖モ雙方相對ニテ取極候年限ハ本文同様證文面ニ記載致シ置可申事

第五條 質入又ハ書入ノ地所期限ニ至リ貸主借主相談ノ上金穀ヲ返

サスシテ地所ヲ引渡候節ハ舊地主ヨリ金主ヘ可引渡旨別紙ニ相認

メ其地ノ戸長加印ノ上金主ヨリ地券相添ヘ確認ノ證ヲ可願出事

(十二年第七號布告ヲ以テ改正)

第六條 質入ノ地所ハ金主ニテ其地所耕作可致筈ニ付テハ地租諸役

トモ總テ金主ニテ可相勤事

但其段管轄廳ヘ届出證書可差出事

第七條 書入ノ地所ハ地主ニテ耕作致シ候儀ニ付地租諸役トモ無論

ニ地主ヨリ可相勤事

但管轄廳ヘ届出ニ不及候事

第八條 管轄違ノ者或ハ同管轄ト雖モ懸隔ノ地所ヲ質ニ取リ候節ハ

其現地ノ村町ヘ金主ノ名代人相定置其地租諸役トモ差支無之様可

爲相勤事

第九條 質入又ハ書入證文ニハ必ス其村町戸長ノ與書證印ヲ取ルヘ

十一年第十七號布告郡區
町村編制法制定ニヨリ副
戸長ノ稱消滅

但戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ「副戸長」與書調印スヘシ

第十條 一箇所ノ地ヲ二重三重ニ書入候義ハ不相成候得共若シ第一

番ノ金主ヘ引當ニ入レ置キ候事ヲ第二番ノ金主承知ノ上ニテ地所

代價ノ餘分ヲ見込又其地所ヲ引當ニ借添ヘ致シ候義ハ不苦尤借主

身代限ノ處分ニ相成候節ハ右地所糶賣ノ代金ヲ以テ第一番ノ者ヘ

元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡

シ第三番以下右ニ準シ引渡申スヘク若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第

一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金第二番ノ金主ヘ引渡スヘ

キ元利ノ金數ニ不足スルトキハ其不足ノ分ヲ償フ事并ニ第三番以下ノ金主ニ償フ事ハ平常引當ナキ債主ニ身代限償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡可申事(七年第五十二號布告ヲ以テ本條改正)

但第二番ノ金主へ受取候證文へハ地所代價ノ餘分ヲ見込借添へ候旨ヲ書載セ可申事

第十一條 地所ハ勿論地券ノミタリモ外國人へ賣買質入書入等致シ金子受取又ハ借受候義一切不相成候事

第十二條 質入年季中天災ニテ地所流亡等其地ノ全形ヲ失フニ至ル時ハ地券ハ消滅スル理ニ付貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ代リ質ニ差入レサセ證文書替ヲ求ル事ヲ得ヘシ若シ代リ質ニ差入ルヘキ地所物品等コレナキ時ハ訴訟ノ末身代限リノ處分ニ及フヘク又池成野地成等ニ變換シ或ハ欠崩等ノタメニ其地ノ幾分ヲ失フ時ハ變換ノ模様及殘存ノ大小ニ應シ規則ニ基キテ地券書換願出へ

キ儀ニ付若シ其變換殘存ノ地ハ貸金數高ノ償ヲナスニ足ラサルト見込ム場合ニ於テハ貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ增質ニ差入レサセ證文書替ヲ求ムルヲ得ヘシ若シ增質ニ差入可キ地所物品等無之時ハコレ亦訴訟ノ末身代限ノ處分ニ及フヘキ事(七年第二號布告ヲ以テ本條改正)

但貸主借主相對示談ハ格別ノ事

第十三條 質入ノ地所年季中天災ニ因リ荒蕪ト相成ハ貸主金主ヨリ起返ノ見込ヲ定メ借主地主承諾ノ證書ヲ取り其管轄へ可願出尤入費ハ借主ヨリ償フヘキ事

但借主起返ノ入費ヲ出ス可能ハサル時ハ證書ヲ以テ其地所ヲ貸主ニ引渡可申尤モ相對示談ノ處置ハ格別ノ事

第十四條 當今質入又ハ書入ニ致シ置年期中ノ分ハ總テ前文規則ニ照準シ當七月限證文相改可申事

第十五條 是迄質入書入ニ致シ置候分ハ前約ノ年季据置不苦尤證文

面等前文規則ニ觸レ候廉ハ總テ相改可申事(六年第百六十七號 布告ヲ以テ追加)

第十六條 從前取結ヒタル質入書入ノ約定ニテ明治六年七月三十一日前ニ期限ヲ過去リタル分ニテ債主ニ於テ貸金返濟方ニ付延期ノ勘辨ヲ加フル者ハ來十月三十一日迄ニ其地所所管ノ戸長役場ヘ届出地所質入書入規則第九條ニ準シ奥書割印ヲ受クヘシ若シ右日限内奥書割印ヲ受ケヌシテ後日其證書ヲ以テ訴訟ニ及フ時ハ質入書入ノ證據ニハ相立サルニ付裁判上糶賣分配ノ時ハ先取ノ權利ヲ失ヒ質入書入ナキ貸借同様ノ處分ニ及フヘキ事(七年第七十六號 布告ヲ以テ追加)

右ノ通相定候事

○ 建物書入質規則并建物賣買讓渡規則明治八年九月 第四百四十八號 布告
諸建物書入質規則并賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條來ル十二月一

日ヨリ施行可致此旨布告候事

(別紙)

建物書入質規則

第一條 金穀ノ借主又ハ預リ主ヨリ返濟スヘキ證據トシテ預ケ主ニ對シ引當ト爲ス所ノ建物ノ圖面ト證文トニ戸長ノ公證ヲ受ケタル者ヲ預ケ主ニ渡シ置キタルヲ建物ノ書入質ト云フ

第二條 書入質ト爲ス建物自身所有ノ地所ニ建テ在ルルハ書入質證文ニ自身持地ノ建物ナルヲ記入スヘシ又借地ニ建テ在ルルハ書入質ヲ爲スモノ其地主ニ請ヒ其地主ナシテ貸地タルヲ證スルノ奥書ヲ爲サシムヘシ若シ借地ノ建物ニシテ地主ノ奥書ナキ證文ハ書入質ノ效ナキニ付書入質ナキ借用證文ト看做スヘシ

但官有ノ借地ニ建テ在ル時ハ其所屬官廳ニ請ヒテ其貸地タルヲ證スルノ奥書ヲ受クヘシ(十年第六號 布告 以テ但書追加)

第三條 金穀ノ借主ヨリ建物引當ノ證文ト建物ノ圖面トヲ建物ノ

在ル地ヲ管轄スル戸長役場ニ差出シ戸長ノ奥書割印ヲ受クルコトヲ公證ヲ受クルト云フ

第四條 建物書入質ノ證文ニ添フタル圖面中ニ書入質ト爲ス所ノ建物ノ圖ハ朱引朱字ト爲シ書入質ノ外ナル建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲ス可シ第一號書式及ヒ第二號書式ヲ見合ヌヘシ

第五條 戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ヲ備ヘ置キ證文ノ奥書割印ヲ願出ル時ハ其大旨ヲ帳面ニ記入シ而シテ帳面ト證文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ奥書ヲ爲シ圖面ニモ同シ番號ヲ朱書シ割印ヲ押スヘシ若シ戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ「副戸長」奥書割印ス可シ

第六條 建物ヲ以テ金穀借用又ハ預リノ引當ト爲シタル證文ニテ前條ノ規則ニ背キ公證ヲ受ケサル者ハ書入質ノ效ナキニ付書入質ナキ預リ證文ト看做ス可シ

第七條 此規則施行以後建物書入質ノ借用證文又ハ預リ證文ニハ必

十一年第十七號布告郡區
戸長ノ稱消滅

ラス返濟ノ期限ヲ定ム可シ若シ其期限ヲ定メサル者ハ書入質ノ效ナキニ付書入質ナキ預リ證文ト看做ス可シ(八年第九十九號布告ヲ以テ改正)

第八條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ借用金穀又ハ預リ金穀ニテ返濟期限ノ定メナキ證文ヲ所持スル者ハ明治九年二月廿八日迄ニ金穀借主預主又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ證文ニ改ム可シ若シ借主預主又ハ其相續人證文ヲ改メサル片ハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フ可シ

但シ明治九年四月三十日ヲ以テ訴人發途ノ期ト定メ其訴人ノ住所又ハ寄留ノ地所ト裁判所トノ距離毎八里ニ一日ノ猶豫ヲ與フ第九條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀借用證文又ハ預リ證文ヲ所有スル者ハ返濟滿期ニ至ルト至ラサルトニ論ナク明治九年二月廿八日迄ニ金穀借主預主又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ證文ニ改ムヘシ若シ借主預主又ハ其相續人

證文ヲ改メサルキハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄
スル裁判所ニ訴フヘシ

但書前同斷

第十條 建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ於テハ原告人ノ訴狀ヲ受
取タルキヨリ三日内ニ裁判所ヨリ被告人ノ建物ノ在ル地ノ戸長ニ
對シタル報知狀ヲ原告人ニ下付シ速ニ戸長ニ送達セシムヘシ右ノ
報知狀ニハ何^府縣管下^{住居}何某ノ訴訟ニ因リ何大區何小區何番地
ノ建物ヲ書入質ト爲ス證文ニ公證スルコトヲ差留ムル旨ヲ記載スヘ
シ而シテ其訴訟落着ニ至リシ時ハ公證ノ差留ヲ解クコトヲ速ニ戸長
ニ報知スヘシ

十一年第十七號布告郡區
町村編制法制定ニヨリ大
小區名稱消滅以下放之

第十一條 第八條及ヒ第九條ノ規則ニ背キ明治九年五月一日以後ニ
至リ此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀^{借用證}
文ヲ所有スル者ハ書入質ノ效ナキニ付書入質ナキ^{借用證}預^り證文ト看做
スヘシ

第十二條 一棟ノ建物ヲ二重三重ニ書入質ト爲スコトハ嚴禁ナレモ若
シ第一番ノ金主ヘ書入質ト爲シタルコトヲ第二番ノ金主承諾ナレハ
建物代價ノ餘分ヲ見込ミ又其建物ヲ書入質ニ借添ト爲スコトヲ得ヘ
シ尤借主身代限ノ處分ニ至ルキハ右建物糶賣ノ代金ヲ以テ第一番
ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者ヘ元利ノ金數
ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡スヘク若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先
ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金第二番ノ金主ヘ引渡
スヘキ元利ノ金數ニ不足スルキハ其不足ノ分ヲ償フコトハ平常書入
質ナキ貸主ニ身代限ノ償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相
當ノ割賦ヲ以テ引渡スヘシ

但第二番ノ金主ニ渡シ置ク書入質ノ證文ニハ建物代價ノ餘分ヲ
見込ミ借添タル旨ヲ書載スヘシ

第十三條 書入質ト爲シタル建物燒失流亡等ニ至リシ時ハ建物ノ所
持主又ハ代理人ヨリ遅クトモ七日内ニ其趣ヲ書面ニ記シ戸長役場

二届出ツヘシ戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ノ朱書番號ニ引合セ朱筆ヲ以テ點合ヲ爲シ其傍ニ燒失流亡等ノ趣ヲ略記シ年月日ヲ記シ戸長ノ實印ヲ押スヘシ第三號書式ヲ見合スヘシ

第十四條 書入質ノ建物燒失流亡等ニ至リシキハ貸主ヨリ借主ニ對シ代リ質ヲ受取ルコノ求メヲ爲スコトヲ得ヘシ若シ借主代リ質ヲ出スコトヲ肯ハス又ハ出シ能ハサルキハ借用金穀返濟期限未滿内ト雖モ貸主ヨリ借主ニ對シ元利返濟ヲ求ルノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

建物質買讓渡規則

第一條 自身所有ノ地ニ建テ在ル建物ヲ賣渡シ又ハ讓渡シヲ爲サント欲スル者ハ賣渡讓渡證文ト圖面トニ戸長ノ奥書割印ヲ受ク可シ又借地ニ建テ在ル建物ノ賣渡讓渡證文ニハ其地主ニ請ヒ其地主ヨリ貸地タルコトヲ證スルノ奥書ヲ受ケタル上ニテ戸長ノ奥書割印ヲ受ク可シ但官有ノ借地ニ建テ在ル時ハ其所屬官廳ニ請ヒテ其貸地タルコトヲ證スルノ奥書ヲ受クヘシ十年第三十八號布告ヲ以テ但書追加

第二條 建物ノ買受又ハ讓受ヲ爲サント欲スル者ハ自身又ハ其代人建物ノ在ル地ノ戸長役場ニ至リ建物書入質記載帳ヲ見合シタル上其質渡讓渡證文ヲ受取り然シテ後ニ戸長役場ニ至リ戸長又ハ「副戸長」ノ面前ニテ「何大區何小區何番地ノ何番ノ建物ヲ何某ヨリ買受讓受タル旨ヲ書入質記載帳ニ記入シ年月日并ニ苗字名ヲ記シ實印ヲ押スヘシ第四號書式ヲ見合スヘシ（十年第六十號布告ヲ以テ結文若シ以下六十字ヲ削ル）

第三條 戸長役場ニ於テ建物質渡讓渡證文ノ奥書割印ヲ願出ル時ハ是亦建物書入質記載帳ニ記入スルコト及ヒ證文ニ奥書シ圖面ニ割印スルコト建物書入質規則第五條ニ準シ公證ヲ與ルノ手續キヲ爲スヘシ

第四條 書入質ト成リタル建物ヲ買受讓受タル者ハ其建物ノ書入質トナリタル金數ノ償却ヲ引受クヘシ但シ買受人ニ於テ其建物所有ノ權ヲ拋棄スル時ハ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受クルニ及ハス

第五條 第四條ノ場合ニ於テ戸主ノ後ヲ受ケタル相續人ハ前戸主ヨリ讓受ケタル建物所有ノ權ヲ拋棄スト雖モ書入質ノ金數ノ償却ヲ

引受ク可シ
(書式略之)

○船舶買賣書入質手續 明治十年三月
第二十八號布告

人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質トナサシ
トスル時ハ明治八年^九第四百四十八號布告諸建物書入質及賣買讓
渡規則ニ準據シ賣主又ハ書入主ヨリ其船ノ圖面ト約定證書ニ本
船管轄地戸長ノ公證ヲ受クヘシ若シ右ノ手續ヲ爲サ、ルニ於テ
ハ其約定證文ハ裁判上尋常金穀貸借證書ト見做スヘシ
但從前書入質ト爲シタル分ハ當明治十年六月三十日迄ニ本文
ノ手續ヲ以テ更ニ約定書改正可致尤航海中或ハ不得止事故ヲ
リテ右期日マテニ書換難致者ハ其旨豫メ本船管轄地戸長役所
ヘ届置クヘシ
右布告候事

○諸建物書入質證書ニ造作ノ有無ヲ記ス 內務省三月
明治八年^九第四百四十八號ヲ以テ諸建物書入質規則布告相成候ニ
付テハ自今其證書面ニ造作 標板 床ノ間 押入等ヲ云居ノ有無記載
可致此旨布達候事

六年第十八號布告地所書
入質規則參看本類ニ載
ス 八年第四百四十八號布告建
物書入質規則參看本類ニ
載ス

○動產不動産書入金穀貸借規則 明治六年八月
第三百六號布告

動產不動産書入金穀貸借規則

一 動產不動産ヲ書入ニ爲シ金穀貸借致シ右期限中書入ノ動產不動
產流亡又ハ燒失ヲ爲スト雖モ負債ハ身代限濟方可申付事
一 動產不動産ヲ書入ニ爲シ金穀貸借シ濟方ノ期ニ臨ミ右書入ノ動
產不動産ノ相場高下アリテ糶賣ノ價負債ノ高ヨリ餘分アル時ハ
其餘分ハ借主ヘ與フヘシ若シ其價負債ヨリ不足ナレハ身代限濟

方可申付事

一 壬申第三百號布告以前家祿ヲ書入ニ爲シ金穀貸借致シタル分ハ家祿ヲ除キ外品物ヲ以テ身代限濟方可申付事

○ 社寺學校病院等へ寄付物處分 明治九年四月 第五十四號布告

社寺學校病院等へ寄附候土地建物其他物品等別段之契約無之分ハ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノトシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

○ 外國人へ家屋地所等貸與方 明治七年八月 第八十五號布告

外國人へ家屋地所等貸渡ノ節約束上輕忽疎漏ヨリ竟ニ内外人民ノ間不都合ヲ生シ候テハ自然交際ニモ差響候條自今學校其他ノタメ備入レ居留地外へ住居スヘキ外國人及公使館附屬書記官等へ貸家貸地ノ節ハ先ツ約定草案相添其管轄廳へ伺出許可ノ上結約可致此旨布告候事

但建物取毀賣拂ノ分ハ幾日以内取拂ノ約定取結可賣渡尤賣渡ノ上ハ其旨管轄廳へ可届出事

○ 日本坑法 明治六年七月 第二百五十九號布告

沿革略記 明治元年四月鑛山ノ銅ヲ初メ古銅地銅等大坂銅會所へ廻送セシメ坑業者私ニ賣捌キ仕用スルヲ禁ス ○同年七月鑛山ノ金銀銅總テ鑛山局へ買收シ人民需用ノトキハ同局へ開申セム ○二年二月鑛山開採ハ其地ノ人民ニ故障

ナケレハ出願ノ上掘出スナ許ス且金銀銅共時ノ相場ヲ以テ
買買スルヲ許シ掘出數量ハ各藩縣ヨリ届出シム○同年十一
月新貨鑄造ニ由リ鑛山ノ金銀銅ヲ大藏省ニ買收シ恣ニ賣買
スルヲ禁ス○四年四月鑛山開採請負ヲ出願シ許可スルモノ
ハ相當ノ稅ヲ納メシム○同年七月前キノ金銀銅勝手賣買ノ
禁ヲ解キ且ツ年々諸鑛物掘出高ヲ開申セシム○五年三月第
百號ヲ以テ鑛山心得書ヲ頒布ス○六年七月第二百五十九號
布告ヲ以テ鑛山其他諸坑業ノ規則ヲ改メ日本坑法ヲ制定ス
是レ現行法ナリ

今般鑛山其他諸坑業ノ規則別冊ノ通改定候ニ付テハ凡坑物ニ關係ノ
事件ハ工部省ニ於テ總管セシメ候條自今金屬其外諸坑物營業ノ儀都
テ同省ヘ可申立候此旨布告候事

(別冊)

日本坑法

第一章 坑物

第一 正理ヲ以テ論スルキハ凡無機物タル者ハ生活ノ機ナキ諸物品都テ坑業
ノ部分ニ屬ス此無機物品質ニ類ニ分ル即第一類ハ有鑛質第二類ハ

無鑛質タリ凡諸金屬ノ天然本質ヲ以出ル者或ハ他ノ物質ト化合シ
テ出ル者ハ右第一類ニ屬ス燃質物山鹽磷酸石灰美石及玉璞ノ類ハ
右第二類ニ屬ス本條舉ル所ノ有鑛質無鑛質トモ總テ是テ坑物ト稱ス坑山坑業坑區坑產等ミナ之ニ倣ヘ

第二 前ニ掲記セシ物類凡日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政
府ノ所有ニシテ獨政府ノミ之ヲ採用スル分義アリ

第三 築石土砂粘土其他建築耕作所用ノ諸物品ハ都テ地主タル者ノ
所有トスヘシ

第四 日本ノ民籍タル者ニ非サレハ試堀ヲ作シ坑區ヲ借り坑物ヲ採
製スル事業ノ本主或ハ組合人ト成ルヲ得ス坑產ノ割合及ヒ損益ハ都テ組
合トス若シコレヲ犯ス者ハ其業ニ屬スル所有物ヲ官ニ没入シテ
其業ヲ禁止ス可シ

第二章 試堀

第五 試堀ヲ作サント欲スル者ハ「鑛山寮」ニ願出許可ヲ得テ之ヲ行
フヘシ試堀ヲ行フ爲ニ必要ノ地面他人ニ屬セハ其償金ヲ對談處分

十年内務省甲第二十二號
布達土石掘取規則發布本
類ニ載ス

スヘシ地主ニシテ自ラ試堀ヲ企ル者ハ衆ニ超テ許可ヲ得ヘキ分義アリトス然レモ自ラ試堀ノ資本無クシテ他人ノ舉ヲ拒ミ或ハ不當ノ償金ヲ貪ラハ「鑛山寮」或ハ他方官ニテ正價ヲ裁決シテ其地ヲ買上クヘシ

第六 試堀ニテ坑物發見スルキハ直ニ見本ヲ添テ「鑛山寮」ニ届出ツヘシ且試堀中ハ一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ノ行業日數及工數並産鑛量ヲ開報スヘシ凡産鑛ハ借區券ヲ第十款得ル後ニ非サレハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ沒收ス可シ

第七 試堀ハ都テ一年間ヲ以テ期限トス若シ延期ヲ願出ルニ實ニ未タ開坑ヲ決スルヲ得サル事理判然タラハ之ヲ許可スルヲ有ル可シ

第八 試堀人廢業スルキハ第二十七款廢坑則ノ如クスヘシ此時ニ産鑛ハ「鑛山寮」ノ許可ヲ得テ賣却シ第三十二款ノ坑物稅ヲ納ムヘシ試堀人損失ニ因テ廢業スル事實判然タルニ於テハ坑物稅

ヲ免スルヲアルヘシ

第三章 借區開坑

第九 開坑スル者ハ先ツ坑區ヲ得ヘシ坑區ノ廣狹ハ其適實ナル起業ノ日途ニ應シテ之ヲ得セシム可シ

但石炭坑ノ借區ハ壹萬坪以上ニ限ルヘシ(十五年第三十八號布告ヲ以但書追加)有鑛質坑ヲ開ク者ハ必ス製鑛ノ業ヲ兼ヌ可シ

凡借區開坑ハ「鑛山寮」ニ願出ヘシ此願書ニ其得ント欲スル坑區ノ測量圖ヲ添テ出ス可シ

試堀ヲ經テ借區願出ル者ハ其坑區中別ニ地主アリト雖モ之ヲ拒ムヲ得ス尤其處分ハ借區券ヲ得ルノ後二十二款ノ如クナル可シ

第十 願出ノ借區ハ「鑛山寮」官員之ヲ驗測シ標石ヲ植テ境界ヲ識別スヘシ巡回官員歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ證印ヲ以テ借區券ヲ附與スヘシ

第十一 凡借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期トス之ヲ終ルニ至テ繼年

期ハ新ニ願出スヘシ

第四章 通洞

第十二 通洞ハ坑道ハ縦横ニ小坑ヲ穿ツヲ通常トス別ニ探鑛疏水運輸
ト云 我カ借區中ニ非スト雖モ之ヲ企ルヲ得ヘシ此時ハ願書ニ目
論見明細圖ヲ添テ「鑛山寮」へ出スヘシ若シ其通洞他人ノ借區ニ巨
渉スヘキハ豫メ其借區人ニモ報知ス可シ

通洞ハ高九尺幅六尺ヨリ減スヘカラス是ヨリ小ナルハ通洞トセス

第十三 願出ノ通洞ハ「鑛山寮」官員實地勘踏歸報ノ後許可スヘキハ
工部全權ノ證印ヲ以テ免狀ヲ附與スヘシ免狀ヲ得ルノ後若シ目論
見圖ニ違ヒ方向ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮セント欲セハ更ニ「鑛山寮」
へ願出許可ヲ得テ之ヲ行フ可シ

第十四 借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クヘキ資本有ニ非サレハ我區中
タリト雖モ他人ノ舉ヲ拒ムヘカラス
通洞保全ノ爲メニ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ一間半以内ニ掘入ル

ヘカラス然レモ其跡ニ自己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患無
カラシムル者ハ此限ニ非ス 是ハ坑物ヲ得ノカ爲ニ一旦
土石ヲ掘出ス時ノ如キ是也

第十五 通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルヲアラハ通洞發起人ニ其謝
金ヲ出スヘシ若シ之ニ就テ對談穩當ナラスハ「鑛山寮」ヨリ處斷ス
可シ

通洞ヲ開ク者ハ借區人未定ノ所ニ於テハ通洞ノ周圍内ヨリ出ルタ
ケノ礦石ヲ取ルヲ得ヘシ他人ノ借區中ニ於テハ此礦石ノ一半ヲ
借區人ニ歸スヘシ

第五章 坑業

第十六 都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ爲ニ存スヘキ所ノ外ハ
成ル丈坑利ヲ遺スヲナク取出スヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用
ヲ害スルモノハ其輕重ニ從テ罰金ヲ徵ス可シ

第十七 試掘開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鐵道河流及ヒ道路ノ如
キ其害ヲ受クヘキ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以内

十四年第七十二號布告
別處斷方卷第十四新ニ
載ス

ノ地ヲ避ク可シ

凡場所ノ主タル者應諾スルニ非シテ此ヲ犯ス者アレハ城堡ハ其律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スルニ倍ノ費額ヲ取テ本費ハ其主ニ附與スヘシ(八年第百八十三號布告ヲ以テ一倍ノ稱呼ヲ廢シ二倍ト改正)

第十八 凡初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ見出ス者ハ速ニ「鑛山寮」ニ報知スヘシ之ヲ背ク者ハ其坑物又ハ代價ヲ取揚クヘシ如此類ノ借區稅ハ第三十一條ニ照準シ高價ナル方ノ例ヲ以テ納ムヘシ

第十九 開坑人ハ歳々一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ニ産出セシ坑物量其賣出高並代價及行業日數工數ヲ具記シテ「鑛山寮」ニ報知スヘシ有鑛質ハ坑産量並製出量且製出セシ混淆物二種以上ノ金屬ヲ含有スルハ其試驗ノ割合ヲモ具記シテ賣出高以下都テ前ノ如クス可シ右數量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五拾圓トス若シ賣出高並代價ヲ

減書スル者ハ其減書セシ高ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十 通例開坑又ハ廢礦ヲ採製スルニモ一年間ノ事業ハ地面五百坪ノ下ニ就テ壯健ナル一夫二百日ヲ以テ成セル程ノ工數ヨリ減スヘカラス若シ之ニ背ク者實ニ百方免レ難ク妨碍判然タルニ有ラスンハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十一 坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通シヲ便利ニスヘシ且甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ地上ニ要路ヲ通センヲ求ルニ於テハ不當ノ償金ヲ貪ルヘカラス若相對シ以テ決セスンハ「鑛山寮」ヨリ處斷スヘシ

右掘通シニ付テ出ル鑛石ハ其所ノ借區人ニ屬スヘシ

第二十二 凡借區人ハ區上ニ於テ藏庫詰所作事場洗礦所鑛所通路等其他坑業ニ必要ナル地面ハ地主タル者ニ豫メ償金ヲ辨ス可シ若シ異論決セスンハ「鑛山寮」或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シ其地ヲ買取ル可シ

第二十三 總テ坑區ヨリ隣區ニ患害損傷ヲ被ラシムルキハ之ヲ償フヘシ若シ償金決セスンハ「鑛山寮」ヨリ裁決スヘシ

第二十四 凡借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ前以テ雙方ヨリ「鑛山寮」ニ願出許可ヲ請フヘシ若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十五 凡借區年限終リ又ハ法ニ背ヒテ其業ヲ禁止セラレ或ハ自ラ廢業スルニ至ル者アレハ都テ其借區ハ政府ニ還復シ其事業ニ就テ如何ナル負債アリト雖モ總テ其坑山ニハ關係セサル者トス此時ニ當テ地中ノ結構ハ坑山ニ屬シテ政府ノ有タルヘシ
地上ノ營造ハ其主ノ取去ルニ任スト雖モ其趾ノ地面ハ完全ニ修復ヲナスヘシ

第二十六 坑業人ハ其坑山地方ノ住民同様トス因テ其地方官ノ諸法令ヲ遵守ス可シ

第六章 廢業

第二十七 坑業ヲ廢セント欲スル者ハ豎坑ノ口ヲ掩ヒ又柵圍ヒスヘシ「鑛山寮」ヨリ其豎坑ヲ當然ニ堅固ニセシヤ且坑内ノ營繕完全存在スルヤヲ檢査スヘシ若シ疎漏アラハ「鑛山寮」ニ於テ是ヲ繕治スヘキ費額ノ一倍ヲ徵收スヘシ(八年第百八十三號布告ヲ以テ一倍ノ稱呼ヲ廢シ二倍ト改正)
第二十八 「鑛山寮」ヨリ疏水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハス之カ爲ニ坑中廢没スルニ至ル者ハ其業ヲ禁止ス

第七章 製鑛所建築

第二十九 凡開坑人坑山外ノ場所ニテ有鑛質物ヲ製出セン爲ニ建築スヘキモノアラハ先ツ「鑛山寮」ニ許可ヲ請フ可シ

第三十 已ニ製煉セシ鑛物ヲ精製荒銅ヲ丁銅棹銅ニ作リ山吹金ヲ純金ニ製スル類ヲ云フスル職業ノ者ハ起業ヲ「鑛山寮」ニ報知シ六ヶ月毎ニ元鑛量並製出品量等ヲ具記シ「鑛山寮」ニ開報スヘシ

第八章 稅納

第三十一 鑛ヲ除クノ外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪毎ニ

一ヶ年金壹圓ツ、借區稅トシテ毎年一月ニ其年一ヶ年分ヲ前納ス
 ヘシ借區稅ハ地租ニ關係セス 鑛及ヒ無鑛質ノ諸物品ヲ採取スル坑區ハ面五百
 坪ニ付前條ノ半高ヲ納ムヘシ即金五十錢トス但怠納者ハ借區券ヲ
 取揚クヘシ(十四年第四十九號布告ヲ以テ前一ヶ年分ヲ鑛山寮ヘ納ム
 一ヶ年分ヲ前納スヘシト改メ但以下ヲ
 加)

廢礦ヲ採取スル坑區ハ面千坪ニ付常例ノ稅額ヲ納ム可シ

開坑區面五百坪廢礦區面千坪トニ足サルモノハ總テ右面積ノ比例
 ニ從テ納ムヘシ

借區初年ノ區稅ハ月割ヲ以テ借區券下附ノ節前納スヘシ(十四年第
 布告ヲ以テ
 本項改正)

「前書借區稅ノ外ニ採製セシ金屬及諸坑物ニ就テ代價百分ノ三ヨリ
 百分ノ二十迄ヲ坑物稅トシテ每歲一月七月兩度ニ「鑛山寮」ニ納ム
 可シ

但稅額ノ儀ハ其坑業ノ盛衰ニ從ヒ「鑛山寮」ヨリ命スヘシ」

八年第二號布告ヲ以テ坑
 物稅收納シ當分ノ内廢ス

十四年第七十二號布告前
 例處斷方參看第十四類ニ
 載ス
 刑法第三編第一章第四節
 參看

第三十二 試掘開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸條款ニ記セル稅或ハ罰
 金價金等ヲ納メサルキ其業ニ屬スル所ノ運移スヘキモノ殘ラス
 「鑛山寮」ヨリ入札拂ニシテ代價ノ中ヨリ不納高ヲ引去リ其殘金ハ
 之ヲ本人ニ還付スヘシ

第三十三 凡坑法ノ意旨ニ戾ル過失アル者ハ輕重ニ從テ罰金ヲ命ス
 ヘシ若シ事業疎略ニシテ人命ヲ失ハ、國律ヲ以テ論處スヘシ

右章款ニ記載セル方法ハ明治六年九月一日ヨリ施行スヘシ從前ノ法
 則及ヒ舊習等若シ此法ニ矛盾スル者ハ都テ廢停タル可シ

坑法附示

坑業及製鑛ノ業ヲ舉行スル者西洋ノ學術及工作ヲ用ヒンカ爲メ一定
 ノ給料ヲ以テ外國技術家ヲ雇入ル、カ如キハ我坑產損益及ヒ所有物
 ニ干係スル事無キニ因テ坑法第四款ノ禁ニ觸レズ然レモ之ヲ雇入ル
 、以前其職業給料及年限ヲ分明ニ記載シ其案紙ヲ「鑛山寮」ヘ送呈シ
 テ結約ノ許可ヲ可請候事

(書類式樣略之)

○北海道鑛山借區稅徵收方明治十一年二月
第三號布告

〔開拓使〕管内鑛山借區稅ノ儀詮議ノ次第有之當分其營業月數ニ應シ月割ヲ以テ徵收候條此旨布告候事

○坑物ヲ引當トシ外國人ヨリ金子借入ルヲ禁ス明治七年十一月
第百廿四號布告

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五拾九號布告日本坑法ニ掲載ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ付縱令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先賣約定等ノ義ハ不相成候條此旨布告候事

○坑業稼ノ者身代限處分中稼業差止明治九年四月
第四拾九號布告

諸坑業稼ノ者身代限り處分ヲ受ケ候節ハ右處分相濟候迄稼業不相成候條此旨布告候事

○借區開坑願出方工部省第一號
第二拾九號御布告日本坑法中試掘並借區開坑其他願

何等鑛山寮へ可差出ト有之候處自今當省へ差出可申尤坑法第三十一條借區及坑物稅ノ義ハ該府縣廳ニ於テ取纏鑛山寮へ上納可致此旨相達候事

○借區明細表坑區稅試掘等開報差出方工部省第三號
第九年十月諸鑛山借區明細表並坑區稅及試掘行業日數等之開報是迄鑛山寮へ差出來候處自今總テ本省へ差出可申此段相達候事

○坑物發見見本差出方工部省第三十號
第七年十二月試掘鑛場ヨリ坑物發見スル時ハ坑法第二章第六款ニ照準直ニ見本可差出管ノ處未タ不指出者モ有之不都合ニ付左ノ條目ニ照準シ早々爲差出猶試掘ヲ不經シテ借區開坑候者モ同様爲差出候條可致此旨布達候事

但以來モ本文同様可相心得候事

一有鑛質無鑛質ニ不係鑛石類ハ方三寸ヨリ大ナラサルモノ三碗砂金ハ成丈大粒ヲ撰ミ目方壹匁ヨリ三匁迄砂鐵ノ類ハ字毎ニ目方十匁石油山鹽等ハ字一箇所ニ付ニ合テ限毎種上中下三品差出ス可シ結品物ハ大小ニ不關產出ノマ、差出スヘキ事但結品物ノ價格アルモノ並ニ砂金ハ相當ノ代價下渡候事
一鑛物類ハ每種必產出ノ地名並掘採人ノ名前書テ添ユヘシ
○一鑛山各自分區營業者坑區間ノ距離ヲ定ム工部省第十月
第八年十月二十六號

諸坑業人一鑛山ヲ數人各自ニ分區營業候者雙方坑區ノ中間ニ相當ノ距離無之候テハ不都合ニ付自今試掘並借區開坑共雙方坑區ノ中間ニ拾間以上ノ距離相立可願出且現今彼此接續ノ坑區ハ更ニ右ノ距離取調圖面相添雙方ヨリ減區可願出此旨布達候事
但右間地ニ於テ探鑛セサルヲ得サル節ハ雙方借區人示談ノ上連名ヲ以テ增借區開坑可願出事

○鑛場讓渡ノモノ證券下渡方工部省三月八號布達
借區開坑許可之鑛場甲ヨリ乙ニ讓渡之儀坑法第二十四條之通甲乙雙方ヨリ願書差出當省ニ於テ調査不都合無之開屆候分ハ更ニ證券可下渡候條讓渡人所持之證券ハ願書一同可差出此旨布達候事
但讓受之年限ハ最初借區差許候年ヨリ殘年數ト相心得可申候事

○砂鑛砂金採取出願手續工部省十月十四號布達
砂鑛並砂金稼行之者ハ日本坑法ニ基キ試掘借區開坑ヲ許可シ來候處自今都テ試掘借區開坑之名稱相廢候條該地所之名字等詳細之繪圖面相添採取之儀出願スヘシ且從來既ニ試掘借區開坑之許可ヲ受居候者ハ採取ニ願替假坑區券ハ返納スヘキ儀ト可心得此旨布達候事

○倒産者ニ試掘借區假證券返納セシム九年四月八號布達
太政官第四十九號身代限り處分ヲ受候者處分中坑業稼方不相成旨御布告ニ付右處分ヲ受候者ハ當省ヨリ下渡置候試掘借區假證

券返納可致此旨布達候事
但身代限り處分濟之上猶再稼致度者ハ坑法ニ照準更ニ可願出候事

○土石堀取規則明治十年十月二十一號布達

沿革略記 明治九年二月內務省甲第三號布達ヲ以テ土石堀取規則ヲ定ム○十年十月同省甲第二十一號布達ヲ以テ前令ヲ改正ス是レ現行法ナリ

日本坑法第一章第二款ニ屬スル土石堀取規則ノ儀ニ付昨九年當省甲第三號ヲ以テ相達置候通り土石料ノ儀ハ是迄百分ノ一ヨリ二拾迄ノ處自今更ニ百分ノ一ト定メ開坑願書式共別紙ノ通り更正候條此旨布達候事

(別紙)

土石堀取規則

日本坑法ハ本類ニ載ス

此規則ハ日本坑法第一章第三款所屬ノ土石
石 硯石 砥石 版石
粘土ノ類 類ニ限リ之レヲ施行スヘシ
石 磐 石 灰 石 築

第一條 官有地ノ土石ヲ開坑試掘セント欲スルハ別紙書式ニ照シ
繪圖ヲ副ヘ地方廳ヲ經テ當省ヘ願出ヘシ

第二條 官有地ノ開坑ハ土石料トシテ一ケ年堀出シタル坑物代價即
チ山元賣拂直段ノ百分ノ一ヲ上納スヘシ

第三條 凡ソ石ハ一尺立方ヲ以テ一切トシ切以下ハ分厘ヲ以テ之ヲ
算シ土砂ハ六尺立方ヲ以テ一坪トシ坪以下ハ合勺ヲ以テ之ヲ算ス
ルモノトス

(書式略之)

○社寺境内ノ樹木妄ニ伐採ヲ禁ス 明治六年七月
第二百三十五號布告

社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共猥ニ伐木不相成候
若シ難止事情有之節ハ其地方廳ヘ願出許可ヲ可受事

○ 民有森林伐木停止方 明治十五年二月
第三號布達

民有森林ノ中水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防禦シ頽雪ヲ支柱ス
ルノ類國土保安ニ關係アル箇所ニシテ漫ニ其樹木ヲ伐採セハ他ニ障
害ヲ來スコト不尠ニ付是等ノ森林ハ自今實地ノ景狀ニヨリ伐木停止
セシムルコトアルヘシ

○第四類

○地租條例明治十七年三月
第七號布告

沿革略記

明治元年八月布告全國ノ稅法姑ク舊貫ニ仍ラシメ納稅等ノ手續ヲ定ム○六年七月第二百七十二號布告ヲ以テ全國ノ地租ヲ改正シ舊法ヲ廢シテ地價ヲ定メ新ニ地券ヲ設ケ本價百分ノ三ヲ以テ正租ト爲ス仍テ地租改正條例及施行規則ヲ頒布ス○七年五月第五十三號布告ヲ以テ地租改正後五年間ハ最初定メタル地價ニ據リ收稅スヘキ旨ヲ前令ニ追加ス○九年五月第六十七號布告ヲ以テ隱田切開切添地ノ處分ヲ定ム○同年五月第六十八號布告ヲ以テ地租改正ニ臨ミ一郡內等ノ中一部分ノニ承服セサル節地價定方ヲ定ム○十年一月第一號布告ヲ以テ地租ヲ減シテ地價百分ノ貳分五厘トナス○同年一月第八號布告ヲ以テ民有地荒地處分ヲ定ム○同年二月第十八號布告ヲ以テ地租改正後拂下地價シ地收稅區分ヲ定ム○同年十月第七十號布告ヲ以テ地租改正條例ニ據リ總テ耕地ト唱ヘシムト雖トモ尙ホ田畑ノ稱ヲ併用セシム○十三年五月第二十五號布告ヲ以テ七年第五十三號布告ノ地租改正後五年間據置ノ地價ハ尙ホ明治十八年迄據置收稅ノコトトナス○十五年七月第三十四號布告ヲ以テ脫

税ノテ土地ヲ欺隱スル者ノ罰例ヲ定ム〇十七年三月第七號布告ヲ以テ前ノ地租改正條例及地租改正ニ關スル條規等ヲ廢シ地租條例ヲ制定ス是レ現行法ナリ

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第貳百七拾貳號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ

(別冊)

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ地券ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田畑郡村宅地市街宅地鹽田鑛泉地

第二類 池沼山林原野雜種地

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩川欠押堀石砂入川成海成湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝、及公眾ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ步ト爲シ三拾步ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ付ト爲ス

第六條 開墾畝下年期明荒地免租年期明ニテ地價ヲ定ルトキ又ハ地目變換スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換又ハ開墾ニ非サレハ修正セス

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ地券記名者ヨリ徴收ス但賃入ノ土地ハ其賃取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキ其地租ハ其地工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徴收ス

第十四條 地目變換ハ其地價修正ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十五條 開墾地ハ歛下年期明荒地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ更定地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ開墾地ハ十五年以内ノ歛下年期ヲ許可ス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十七條 歛下年期中當初ノ目的ヲ改メ他ノ地目ニ變スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ直ニ其地價ヲ定メ又ハ更ニ歛下年期ヲ許可スルトアルヘシ

第十八條 歛下年期明ニ至リ開墾ノ成功ニ至ラサルモノハ更ニ十五年以内歛下繼年期ヲ許可ス

第十九條 歛下年期明ノトキハ其地價ヲ修正ス若シ其開墾當初ノ目的ニ達セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正

ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十一條 免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依テ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモ

ノトシ其地券ヲ還納セシム

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條第十六條ニ違犯スル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス其免租地ヲ有租地ト爲シ又ハ開墾ヲ爲スコトヲ許可スヘキモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第十七條ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人、ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人、ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當

ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ
之ヲ納メシム

○北海道地租ヲ定ム 明治九年十二月
第百六拾壹號布告

沿革略記 明治五年六月開拓使ヨリ北海道開墾地收税額ヲ定ム
○九年十二月第百六拾壹號布告ヲ以テ北海道ノ地租
地價百分ノ一ト定ム是レ現行法ナリ

北海道地租ノ儀當分地價百分ノ一二相定候條此旨布告候事

○地所名稱區別 明治七年十一月
第百二十號布告

沿革略記 明治六年三月第百十四號布告ヲ以テ地所名稱區別ヲ
制定ス○七年十一月第百二十號布告ヲ以テ前令ヲ改
定ス是レ現行法ナリ

明治六年三月第百拾四號布告地所名稱區別左ノ通改定候條此旨布告候
事

官有地

第二種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス
(十二年第三十四號布告ヲ以
テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云

一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社
及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云

第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府
縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス(八年第百十四號布告
二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ賦
スルトアルヲ地方稅ヲ賦セサルト改ム)

但此地ニアル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ

一 皇族賜邸

一官用地

官院省使寮司府藩縣本廳裁判所警視廳陸海軍
分營其他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云

第三種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス

(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシム

ヘシ(十二年第三十四號布告ヲ以テ借地料以下改正)

一山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他

民有地ニアラサルモノ

一鐵道線路敷地

一電信架線柱敷地

一燈明臺敷地

一各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ

一人民所有ノ權理ヲ失セシ土地

一民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地

一行刑場

第四種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス

(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ賦セサルト改ム)

一寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

民有地

第一種 地券ヲ發シ地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス(十二年第

布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

一人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云

但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰シ地開墾等ノ

如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

一人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場

秣場社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云(本項ハ元第二種ナルヲ

以テ第一種ニ合ス)

但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ潰地或ハ開

墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第二種 地券ヲ發シテ地租地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(九年第八十

以テ本項元第三種ナルヲ第二種ト改ム十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

一官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云フ(八年第百十四號

正改)

一民有ノ用惡水路溜池敷堤敷及井溝敷地(八年第百五十四號布

一公衆ノ用ニ供スル道路(十三年第四十三號布告ヲ以テ但書共追加)

但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

○公立農學校實驗用ノ地所租稅免除(明治十六年十二月

第四十四號布告)

公立農學校所有ニシテ實驗用ニ供スル地所ハ每一校五町步以內其地租及ヒ地方稅ヲ免ス

○官用地ハ人民使用ノ外協議費ノ賦課ニ應ヒス(第三十一年八月
官有地第二種官用地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除クノ外其
所在區町村協議費ノ賦課ニ應ヒサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但道路疎水等ノ爲メ該區町村へ手當金ヲ給與スルハ各處ノ適
宜タルヘシ

○官營ニ關スル倉庫其他存置スル敷地ハ官有地第三種ニ据置ク
內務省乙第十六號達

明治七年乙第二十八號並同年乙第五十八號ヲ以相達候官營ニ關
スル倉庫及ヒ家屋等將來使用ノ目途ヲ以テ存置スルモノ又ハ拂
下ケ殘ノ分ト雖モ追テ使用候歟或ハ拂下ケ候迄ハ其敷地ハ總テ
官有地第三種ニ据置候儀ト相心得可申此旨相達候事
但使用候節ハ其時々經伺ノ上官有地第二種官用地へ組替可申
事

○市街郡村揭示場敷地ハ官有地第三種トス(八年五月
市街郡村ニ屬スル揭示場敷地ノ儀從來官有地ニ有之分ハ勿論將
來官有地ニ新設候分ハ官有地第三種ニ組入ヘク尤新設修繕等一
切ノ費用ハ其村市ニ於テ可相辨此旨相達候事

但民有地ニ建設候節ハ夫々取調內務省へ可申出事
○御歷代御殯歛地等官有地第三種トス(八年五月
御歷代天皇及皇后皇妃皇子皇女御殯歛地等御由緒判然タル場所
ハ官有地第三種舊跡名區ノ部ニ編入保存可致候條御由緒等詳密
調査ヲ遂ケ地形坪數等明詳記載圖面相副可伺出此旨相達候事

○耕地ノ用水溜池等耕作ノ分借地料及地方稅ヲ課セズ(八年八
月
第六百四十
號達)

明治七年十一月二十號布告ヲ以地所名稱區別改定民有地ニア

獨前編ノ新築修繕等ノ路
費ハ十二年第六號達ニ由
リ地方稅ヨリ支辨ス

十二年第三十四號布告ニ
因リ區入致ラ地方稅トナ
ス

ラサル池澤溝渠等ハ官有地第三種ニ編入候ニ付テハ耕地ノ用水
溜池及ヒ井溝等ノ儀ハ従前ノ通り水掛リ地民ニ所用セシメ耕作
一途ニ相用候分ニ限リ別ニ借地料地方稅等賦課ニ不及候尤右地
内ニ生スル水草魚鼈等取入利益トナスモノ其場所故障無之差許
候節ハ相當借地料等收入候儀ト相心得内務省ニ可申出此旨相達
候事

○地方廳賦金ヲ以テ設ケル傳習所等ノ地所官有地第四種トス
内務省乙第四百十四號達
各地方廳ニ於テ賦金ノ内ヲ以建設スル傳習所女工教場及ヒ病院
貧院等場所ノ儀ハ官有地第四種ニ編入候條既ニ建設シタル分
右ニ照シ伺出候儀ト可相心得此旨相達候事
但民有地借受建設ノ分地種組入方ハ此限ニ非ス

○買上地拂下地等收稅除稅區分明治十年二月
第十八號布告

地租改正後買上地拂下地潰地等收稅除稅區分左ノ通相定候條此旨布
告候事

第一條 民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以
テ收入スヘシ

第二條 官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ
以テ收入スヘシ

第三條 民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池道路堤塘敷其他潰シ地ト
ナス時ハ工事着手ノ月ヨリ除稅スヘシ一段着手スルモ若シ工事ヲ
中止シテ六ヶ月ニ及フモノハ工事ヲ施シタル部分ヲ除キ其中止間
ハ除稅ノ限ニアラス(十五年第三十五號
布告ヲ以テ改正)
但七ヶ月以上ニ渉ルヘキ工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除稅ノ
區域ヲ定ムルモノトス

○地租徵收期限明治十四年二月
第拾四號布告

十七年第七號布告地租條
類第四條第十三條參照本
類ニ載ス

沿革略記

明治元年八月税法ハ當分舊慣ニ仍リ各府縣諸藩ノ租税金米ノ納付方ヲ示ス○四年四月社寺領上地ノ收納皆濟期月等ヲ定ム○四年七月廢藩置縣ニヨリ租稅徵收ハ姑ク舊慣ニ依ラシム○五年八月第二百廿二號布告ヲ以テ貢米石代金上納期月ヲ定ム○六年十二月大藏省第百八十七號達ヲ以テ改曆ニ由リ地租收納期月ヲ改ム○九年一月第三號布告ヲ以テ都テ前令ヲ廢シ地租徵收期限ヲ定ム○十年七月第五十三號布告ヲ以テ徵收期限ヲ區分シ畑方三期田方三期合テ六期ト改定ス○十四年二月第十四號布告ヲ以テ前令ヲ改メ四期ニ區分シ畑方田方各二期トナス是レ現行法ナリ

明治十年七月第五拾三號布告地租徵收期限ノ儀明治十四年分ヨリ左ノ通改定候條此旨布告候事

但市街宅地地租ノ儀ハ該年七月翌年一月兩期ニ其五分宛テ收納ス
ヘシ(十五年第廿四號布告ヲ以テ但舊改正)

地租徵收期限

畑方及宅地山林原野牧場

一期同 該年七月一日ヨリ 八月三十一日限

五分

二期同 九月一日ヨリ 十月三十一日限

同

五分

田方

三期同 十一月一日ヨリ 十二月十五日限

五分

同

四期同 翌年二月一日ヨリ 三月三十一日限

五分(十六年第三十六號布告ヲ以テ本項改正)

○

○地租田方ニ限り願ニヨリ半額代米納テ許ス(明治十年十一月地租金ノ内田方ニ限り當分人民ノ情願ニ任セ半額其府縣ノ地租改正ニ用ヒタル相場ヲ以テ代米納差許候條此旨布告候事)

地租田方ニ限り願ニヨリ半額代米納テ許ス

○地券證印稅則明治十四年五月第三十號布告

沿革略記

明治五年正月大藏省ヨリ東京府ニ地券發行地租收入規則ヲ達ス其條中ニ新規並書換共地券印稅ヲ定ム是レヲ地券證印稅徵收ノ濫觴トス○同年二月大藏省第二十五號達ヲ以テ地所賣買讓渡ニ付地券渡方規則ヲ京都大坂二府及各縣ニ頒テ其條中ニ新規並書換ノ地券證印稅ヲ定ム○六年十二月第三百九十六號布告ヲ以テ代替授與並水火盜難ニヨリ地券書換ノ證印稅ヲ定ム○九年五月地租改正事務局第一號布達ヲ以テ六年第三百九十六號布告ノ稅額及ヒ荒地其他無代價券狀授與書換ノ證印稅ヲ改正ス○十年九月地租改正事務局第二號布達ヲ以テ九年同局第一號布達中ニ荒地起返及開墾餘下半年季明地其他一筆地ヲ數筆ニ分裂數筆地ヲ一筆ニ合併等ニテ所有主變換セサル地券書換證印稅ヲ追加ス○十四年五月第三十號布告ヲ以テ前ノ證印稅則ヲ廢止シ地券證印稅則ヲ改正ス是レ現行法ナリ

地券證印稅左ノ通改正明治十四年七月一日ヨリ施行シ從前ノ證印稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

證印稅則

地券ニ記セシ

券狀壹通ニ付

金高拾圓未滿

三錢

金高貳百圓以上

千分ノ五
即拾圓ニ付五錢

金高貳百圓以上

壹圓

金高五百圓以上

壹圓貳拾五錢

金高千圓以上

壹圓五拾錢

金高貳千圓以上

貳圓五拾錢

金高五千圓以上

三圓七拾五錢

金高壹萬圓以上

五圓

左ニ掲クルモノハ券面代價ノ有無ニ拘ハラズ券狀壹通ニ付三錢トス

代換授與并ニ水火盜難ニヨリ地券書換

荒地其他無代價地券授與書換

荒地起返及開墾畝下年季明其他一筆地ヲ數筆ニ分裂數筆地ヲ一筆ニ合併等ニテ所有主變換セザル地券書換

○酒造稅則 明治十三年九月 第四十號布告

沿革略記 明治元年五月古來ノ酒造鑑札ヲ改メ造石數ヨリ上納金ヲ定メ并増造減造ノ方法ヲ定ム○同年九月百石未滿ノ酒造願ニヨリ百石迄ノ増造ヲ許シ及千石以上ノ株高分株ノ事ヲ許ス○二年十二月民部省ヨリ酒造株濁酒造株醬油造株鑑札冥加金并年々冥加金ノ額ヲ定ム○四年欠清濁酒銘酒類并醬油釀造取締方稅則ヲ制定シ從前ノ株鑑札ヲ廢止シ更ニ免許鑑札ニ換フ○八年二月第廿六號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ酒類稅則ヲ制定ス○十三年九月第四十號布告ヲ以テ前ノ酒類稅則ヲ廢止シ酒造稅則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

(別冊)

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ク可シ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得可シ

- 一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ
- 二類 蒸溜酒 燒酎酒精再溜酒精其他(十五年第十七號布告ヲ以テ)酒精云々ノ六字ヲ加フ
- 三類 再製酒 銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタル者ヲ云フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ(十五年第十六十號布告) 以テ稅額ノ項共改正)

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付 金三十拾圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付 金四圓

二類壹石ニ付 金五圓

三類壹石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月二十日迄ヲ以テ一期トス
酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス
(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項造石高各項共追加)

清酒 百石

濁酒 拾石

一類清酒濁酒 二類三類 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ
(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項追加)

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ
(十五年第十七號布告ヲ以テ刪除シ同年第六十一號布告ヲ以テ追加)

書換ヲ請フ可シ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代換改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フ可シ

第二章 納稅造石検査

第八條 免許稅ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石稅ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ二月中検査濟石數ニ係ル稅額ノ半數
(十五年第十七號布告ヲ以テ本項改正)

第二期 七月三十一日限

三月一日ヨリ六月中検査濟石數ニ係ル稅額ノ半數
(十五年第十七號布告ヲ以テ本項改正)

第三期 九月二十日限

七月一日ヨリ皆造検査濟石數ニ係ル稅額并前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出検査ヲ受ケ
現石數ニ付納稅スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ但書共追加)

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一
箇所以上ヲ廢シ尙ホ存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届
出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總
テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和
スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條

二類ニ變製スル類ニ就キ之ヲ納ムヘシスル時ハ造石稅ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納
ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石

數ニ係ル造石稅ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石稅ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第
十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直チニ管
廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石
稅ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ
係ル造石稅ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許稅ヲ納ム可シト
雖モ造石稅ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハ
ス其仕込タル酒も及其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査
ヲ受ク可シ

第廿條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳へ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳へ届出ヘシ(十六年第六號布告ヲ以テ改正)

造酒着手後造石稅完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ヲ酒造場外へ移スコトヲ許サス(十六年第六號布告ヲ以テ本項追加)

酒造用諸器械ヲ賣與讓與貸與及所持主へ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラズ検査濟ニ係ル造石稅ヲ完納ス可シ(十六年第六號布告ヲ以テ本項追加)

第三章 禁令雜令

第廿一條 酢及ヒ酒もとヲ販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もとノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニ在ラス(十五年第十七號布告ヲ以テ但書追加)

第廿二條 他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス(十五年第六號布告ヲ以テ改正)

第廿三條 検査未濟ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

検査既濟ノ酒類へ検査未濟ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項追加)

第廿四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第廿五條 造酒樽リ器器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直チニ管廳へ届出再封ヲ請フヘシ

第廿六條 免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但シ種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第廿七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳へ届出ヘシ但増減ハ其時々届出ヘシ

第廿八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第廿九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許稅額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒類石數ノ檢査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ本條改正但書追加)

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

第三十三條 檢査未濟ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加十六年第二十六號布告ヲ以テ第十四條ノ下又ハ云々ノ六字ヲ刪ル)

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス(十六年第六十六號布告ヲ以テ本項改正)

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒

收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ但書共追加)
但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)
酒造稅則附則(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

第一條 自家用料ノ酒類(飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ)ヲ製造スル者ハ管廳ヘ届出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス
第三條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石(二種以上製造其總石數ヲ合算ス)ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ
第四條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スル

ヲ得ス

第五條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス
第六條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ
第八條 第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第九條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第二十七條及ヒ第二十八條ヲ適用ス

○ 酢造營業者酢元ニ供スル酒類ハ酒造稅則ニ據ラシム(明治十六年十二月號布告)

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第

三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ
第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○酒造醬麴及賣藥印紙煙草稅則ニ關シ犯罪アルキ租稅官吏處分

方明治十六年十二月
第四十三號布告

酒造稅則醬麴營業稅則賣藥印紙稅則煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證據取調ノ處分ヲ爲スユトヲ得但其官吏ハ主任タルノ證據ヲ携帶スヘシ

○醬麴營業稅則明治十三年九月
第四拾壹號布告

沿革略記

明治六年四月大藏省第六拾七號達ヲ以テ醬麴營業者ニ免許鑑札ヲ付與シ醬麴稅ヲ徵ス○八年二月第貳拾

六號酒稅規則改正布告ノ但書ヲ以テ醬麴稅ヲ廢ス○十三年

九月第四拾壹號布告ヲ以テ再ヒ醬麴營業稅則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

醬麴營業稅則別冊之通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

醬麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醬麴釀造酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ二期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醬麴營業稅

金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月二十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

醬麴及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ(十五年第六十貳號布告ヲ以テ本項追加)

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ

願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醬麴賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戸外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス醬麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 醬麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醬麴受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類醬麴ヲ製造スルヲ許サス(十五年第六拾貳號布告ヲ以テ追加)

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代

十六年第四十三號布告
狗糞稅則ニ關シ犯罪ヲ
ルトキ租稅官吏處分方參
看本類ニ載ス
十四年第七十二號布告
例處罰方參看以下條之類
十四類ニ載ス

價ヲ追徴スヘシ(十五年第六拾貳號 布告ヲ以テ追加)

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス(十五年第六拾貳號 布告ヲ以テ追加)

第十五條 齎翹營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス(十五年第六拾貳號 布告ヲ以テ追加)

○ 烟草稅則 明治十五年十二月 第六拾三號布告

沿革略記 明治八年二月第二十八號ヲ以テ明治九年一月一日ヨリ烟草ニ課稅スヘキ旨ヲ公布ス○同年十月第五百拾號布告ヲ以テ稅則ヲ制定ス○十五年十二月第六十三號布告ヲ以テ前稅則ヲ改正ス是レ現行法ナリ

明治八年十月第五百拾號布告烟草稅則別紙ノ通改定シ來十六年七月一

十六年第四十三號布告
烟草稅則等ニ關シテ
方參本類ニ載ス

日ヨリ施行ス

但明治十年二月第拾四號布告第一項ハ廢止ス

(別紙)

烟草稅則

第一章 烟草營業

第一條 烟草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

烟草製造人

烟草仲買人

烟草小賣人

第二條 刻烟草又ハ卷烟草等ヲ製造スル者ヲ烟草製造人トス但賃銀ヲ受ケテ他ノ製造人ノ烟草ヲ製造スル者ハ此限ニ在ラス

第三條 未製造ノ烟草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者へ賣渡シ及製造烟草ヲ買入レ之ヲ小賣人又ハ同業者へ賣渡ス者ヲ烟草仲買人トス

第四條 製造烟草ヲ自用者へ賣捌ク者ヲ烟草小賣人トス

第二章 營業鑑札

第五條 烟草營業者ハ管轄廳へ願出營業鑑札ヲ受ク可シ但製造仲買及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業鑑札ヲ受ク可シ

第六條 烟草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ管轄廳ニ願出仕入又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯ス可シ

第七條 烟草營業者ハ鑑札ヲ受クルトキ左ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

烟草營業鑑札料 壹枚ニ付金貳拾錢

烟草仕入鑑札料 壹枚ニ付金拾錢

烟草出賣鑑札料 壹枚ニ付金拾錢

第八條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セントキハ之ヲ管轄廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フ可シ但前條ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

第九條 營業人廢業スルトキハ管轄廳へ届出鑑札ヲ還納ス可シ

第十條 鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 營業稅

第十一條 烟草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ム可シ但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ム可シ

烟草製造營業稅 壹個年 金拾五圓

烟草仲買營業稅 壹個年 金拾五圓

烟草小賣營業稅 壹個年 金五圓

第十二條 烟草營業稅ハ年々兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限管轄廳ニ納ム可シ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受ル節其半年分ノ營業稅ヲ納ム可シ

第四章 印稅

第十三條 烟草製造人刻烟草ヲ製造スルトキハ左ノ量目ニ從ヒ玉造紙包又ハ箱詰ニ裝置シ相當ノ印紙ヲ用フ可シ

量目 印稅 卸發定價百々ニ付 二十五錢未滿ノ分 同 卸發定價百々ニ付二十五錢以上五十錢未滿ノ分

五匁 二厘 三厘 四厘

十匁 四厘 六厘 八厘
 十五匁 六厘 九厘 一錢二厘
 廿匁 八厘 一錢二厘 一錢六厘
 三十匁 一錢二厘 一錢八厘 二錢四厘
 四十匁 一錢六厘 二錢四厘 三錢二厘(十六年第六)
四拾壹號布告ヲ以テ本項追加
 五十匁 二錢 三錢 四錢
 八十匁 三錢二厘 四錢八厘 六錢四厘(十六年第六)
四拾壹號布告ヲ以テ本項追加
 百匁 四錢 六錢 八錢
 第十四條 刻烟草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及印紙ノ彩紋ヘカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ以テ之ニ消印ス可シ
 第十五條 刻烟草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲ストキハ二厘ノ帶印紙ヲ以

テ結束ス可シ
 第十六條 刻烟草ヲ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルコトヲ得ス
 第十七條 外國ヘ輸出スル烟草ニ限リ輸出ノ節稅關ニ於テ戻稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸出人ヘ下付ス可シ
 第十八條 烟草印紙ノ種類價格左ノ如シ
 帶印紙 黑色 一枚 二厘
 同 淡赭色 同 三厘
 同 黃色 同 四厘
 同 赭色 同 六厘
 同 萌黃色 同 八厘
 同 淡青色 同 九厘
 同 茶褐色 同 一錢二厘
 同 淡紅色 同 一錢六厘

| | | | |
|---|-----|---|---------------------------------|
| 同 | 桔梗色 | 同 | 一錢八厘 |
| 同 | 橙黃色 | 同 | 二錢 |
| 同 | 老綠色 | 同 | 二錢四厘 |
| 同 | 濃青色 | 同 | 三錢 |
| 同 | 淡黑色 | 同 | 三錢二厘 <small>(十六年第四拾壹號布)</small> |
| 同 | 黃綠色 | 同 | 四錢 |
| 同 | 嬌栗色 | 同 | 四錢八厘 <small>(十六年第四拾壹號布)</small> |
| 同 | 紫色 | 同 | 六錢 |
| 同 | 朱色 | 同 | 六錢四厘 <small>(十六年第四拾壹號布)</small> |
| 同 | 赤色 | 同 | 八錢 |

第十九條 烟草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシ

ム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十條 印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第五章 雜則

第二十一條 刻烟草ハ每個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記ス可シ

第二十二條 烟草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持スル

コトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ

第二十三條 烟草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ

以テ定ムル所ニ從フ可シ

烟草製造人

烟草製造帳

烟草仲買人

烟草買入帳

烟草賣渡帳

烟草小賣人

烟草買入帳

第二十四條 烟草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買

入ヲ爲ス毎ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示ス可シ

第二十五條 印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及

買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十六條 烟草營業者ハ烟草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十七條 烟草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ烟草買入高賣捌高製造高并印紙買入高及六月三十日ノ烟草并印紙ノ現在高ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十八條 印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ印紙賣捌高并買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十九條 烟草營業者ハ營業ノ標札ヲ戶外ニ掲出ス可シ但書式ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第三十條 印紙買入鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 未製造ノ烟草ハ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス但貸與讓與ノ名義ヲ以テスルモ亦同シ

第六章 検査

第三十二條 烟草營業者ノ帳簿及其所持ノ烟草ハ主任官隨時之ヲ検査ス可シ

第三十三條 検査官吏ハ検査ノ時官ノ印章ヲ携帯シ營業者ノ求ニ應シテ之ヲ示ス可シ

第七章 罰則

第三十四條 營業鑑札ヲ受ケスシテ烟草營業ヲ爲ス者ハ營業稅遁脱ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ烟草ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三十五條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣渡代價ヲ追徴ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十六條 帳簿ノ登記ヲ詐テ脱稅ヲ謀リ若クハ脱稅ノ便ヲ與ヘタル者又ハ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰

金ニ處ス

第三十七條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓受ケタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十八條 第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者及第二十二條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル烟草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三十九條 管轄廳ノ許可ヲ得スシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 未製造ノ烟草ヲ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第十三條ノ烟草裝置區分ニ違フ者ハ貳圓以上貳拾圓以

下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第四十二條 鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第二十五條第二十六條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 烟草自用者ニシテ未製造ノ烟草又ハ無印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十四條 第八條第九條第二十七條第二十八條ノ届出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十五條 第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十七條 烟草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

十六年第四十三號布告
 造稅則其他稅則ニ關スル
 犯罪租稅官吏取締處分方
 案本新ニ載ス

○賣藥印紙稅規則 明治十五年十月 第五十壹號布告

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

- 一 定價壹錢迄 印稅壹厘
- 一 同 貳錢迄 同 貳厘
- 一 同 三錢迄 同 三厘
- 一 同 五錢迄 同 五厘
- 一 同 拾錢迄 同 壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

- 壹厘 淡黑色

- 貳厘 青 色
 - 三厘 黃 色
 - 五厘 茶 褐 色
 - 壹錢 赭 色
 - 貳錢 綠 色
 - 三錢 濃 青 色
 - 四錢 橙 黃 色
 - 五錢 紫 色
 - 拾錢 深 紅 色
- 第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ
- 但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ
- 第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌クモノトス
- 第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百

圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

(印紙貼用雜形略之)

○ 證券印稅規則 明治十七年五月第十一號布告

沿革略記 明治六年二月第五十六號布告ヲ以テ諸証文印紙貼用規則ヲ制定ス○七年七月第八十一號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ證券印稅規則ヲ制定ス○八年七月第二百二十號布告ヲ以テ人民ヨリ各應ニ差出ス受領并約定筋ニ涉ル書類ニ證券印紙界紙ノ用方モ本則ニ據ラシム○十七年五月第十一號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス是レ現行法ナリ

明治七年七月第八拾壹號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月二日ヨリ施行ス

但明治八年七月第百貳拾號布告ハ同日ヨリ廢止ス

(別冊)

證券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲グル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル

所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ税印ノ押捺ヲ請フコトヲ得

- 一 當座預リ金引出小切手 印税 五厘
- 一 委任狀 同 五厘
- 一 金高記載ナキ約定證文 同 壹錢
- 一 遺物證文 同 壹錢
- 一 跡式讓證文 同 壹錢
- 一 讓與證文 同 壹錢
- 一 期限ヲ定メサル預リ金證文 同 壹錢
- 一 耕地小作證文 同 壹錢
- 一 雇人請合狀 同 壹錢
- 一 金高記載ナキ諸物品預リ證文 同 壹錢
- 一 金高記載ナキ諸物品借用證文 同 壹錢
- 一 地所預リ證文 同 壹錢

- 一 諸物品切手 同 壹錢
 - 一 借家證文 同 壹錢
 - 一 賣買仕切書 同 壹錢
 - 一 保險證文 同 壹錢
 - 一 諸會社株券 同 壹錢
 - 一 送金手形 同 壹錢
 - 一 金 錢 通帳 一年以内一冊ニ付 同 壹錢
 - 一 諸物品 判取帳 同 貳拾錢
 - 一 結社約定書 同 壹錢
- 但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ
- 左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限り下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一營業ニ關スル送狀 印稅 壹錢
 一營業ニ關スル請取書 同 壹錢
 右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

一金錢借用證文
 一^{地所}賣買證文
 一金高記載アル諸物品預リ證文
 一金高記載アル諸物品借用證文
 一諸物品賣買證文
 一金錢定期預リ證文
 一金高記載アル諸般ノ契約證書

| | |
|----------------|--------|
| 金高壹圓以上貳拾圓未滿 | 印稅 壹錢 |
| 金高貳拾圓以上五拾圓未滿 | 同 貳錢 |
| 金高五拾圓以上百圓未滿 | 同 四錢 |
| 金高百圓以上百五拾圓未滿 | 同 六錢 |
| 金高百五拾圓以上貳百圓未滿 | 同 八錢 |
| 金高貳百圓以上三百圓未滿 | 同 拾壹錢 |
| 金高三百圓以上四百圓未滿 | 同 拾四錢 |
| 金高四百圓以上六百圓未滿 | 同 貳拾錢 |
| 金高六百圓以上八百圓未滿 | 同 貳拾六錢 |
| 金高八百圓以上千百圓未滿 | 同 三拾貳錢 |
| 金高千百圓以上千四百圓未滿 | 同 三拾八錢 |
| 金高千四百圓以上千七百圓未滿 | 同 四拾四錢 |
| 金高千七百圓以上貳千圓未滿 | 同 五拾錢 |
| 金高貳千圓以上貳千五百圓未滿 | 同 六拾錢 |

金高貳千五百圓以上三千圓未滿 同 七拾錢
 金高三千圓以上三千五百圓未滿 同 八拾錢
 金高三千五百圓以上四千圓未滿 同 九拾錢
 金高四千圓以上 同 壹圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所
 ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿 印稅 四錢

金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ

一金錢當坐預リ證文

一質物預リ書
小札

金高壹圓以上貳拾圓未滿 印稅 壹錢

金高貳拾圓以上 同 貳錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所
 ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿 印稅 貳錢
 金高百圓以上 同 四錢

一爲替手形

一荷爲替手形

一約束手形

金高五拾圓未滿 印稅 壹錢

金高五拾圓以上百圓未滿 同 貳錢

金高百圓以上貳百圓未滿 同 四錢

金高貳百圓以上五百圓未滿 同 八錢

金高五百圓以上千圓未滿 同 拾五錢

金高千圓以上貳千圓未滿 同 貳拾五錢

金高貳千圓以上 同 五拾錢

第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同ウスルモノハ其名稱
 ニ拘ハラズ稅率ニ照シ相當シ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 印紙ハ證書ヲ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用シ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送り狀ハ主任官之ヲ検査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

- 一 官廳ヨリ差出ス證書帳簿
- 一 官吏進官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公

立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書

一 國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書

一 國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿

一 金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書

一 諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人へ差出ス請取證書

一 罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官検査ノ節之レニ捺印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足税ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脱税高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印税高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ検査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二

十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條及第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○印紙及手形用紙ノ種類定價第十七年五月
第十二號布達

今般第拾一號布告ヲ以テ證券印稅規則改正候ニ付テハ印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價左ノ通り相定ム

但印紙ハ當分ノ内新舊取交貼用スルコトヲ得

定價 五厘

| | | |
|------|----|------|
| 橙黃色 | 同 | 壹錢 |
| 黃綠色 | 同 | 貳錢 |
| 萌黃色 | 同 | 貳錢 |
| 桔梗色 | 同 | 五錢 |
| 青色 | 同 | 拾錢 |
| 淡黑色 | 同 | 拾錢 |
| 赤色 | 同 | 貳拾五錢 |
| 手形川紙 | 同 | 壹圓 |
| 老綠色 | 定價 | 壹錢 |
| 桔梗色 | 同 | 貳錢 |
| 淡黑色 | 同 | 四錢 |
| 橙黃色 | 同 | 八錢 |
| 淡赭色 | 同 | 拾五錢 |
| 淡紅色 | 同 | 貳拾五錢 |
| 淡青色 | 同 | 五拾錢 |

○民事訴訟用印紙規則明治十七年二月
第五號布告

沿革略記

明治八年十二月第百九十六號布告ヲ以テ訴訟用郵便規則ヲ制定ス○十七年二月第五號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ民事訴訟用印紙規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定シ明治十七年四月一日ヨリ施行ス但明治八年^{十二月}第百九拾六號布告訴訟用郵便規則ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

(別紙)

民事訴訟用印紙規則

第一條 凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應シ左ノ區別ニ隨ヒ其受付ノ時ニ於テ印紙ヲ貼用ス可シ

| | | |
|----|-------|-----|
| 金額 | 五圓マテ | 貳拾錢 |
| 同 | 拾圓マテ | 三拾錢 |
| 同 | 貳拾圓マテ | 六拾錢 |

同 五拾圓マテ 壹圓五拾錢

同 七拾五圓マテ 貳圓貳拾錢

同 百圓マテ 三圓

同 貳百五拾圓マテ 六圓五拾錢

同 五百圓マテ 拾圓

同 七百五拾圓マテ 拾三圓

同 千圓マテ 拾五圓

同 貳千五百圓マテ 貳拾圓

同 五千圓マテ 貳拾五圓

同 五千圓以上ハ千圓マテ毎ニ貳圓ヲ加フ

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第三條 人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ

但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戸長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判

官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スルコトアル可シ

第四條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

答辯書證據物寫辯駁書辯論書上申書陳述書等

證人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書

審判ノ延期ヲ請求スル願書

第五條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書

財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書

執行命令書ヲ請求スル願書

身代限ノ處分ヲ請求スル願書

第六條 裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹

枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚三錢

ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

但裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ壹

枚二十行一行十八字詰トス

第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時貳拾錢ノ印紙ヲ貼

用ス可シ

第八條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者ニ辨償

ス可キモノトス

第九條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他

ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二

百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買

取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒

收ス

第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯

加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○印紙ノ種類定價及貼用方第十七年二月
今般第五號布告ヲ以テ訴訟用印紙規則制定候ニ付印紙ノ種類定
價及ヒ貼用方左ノ通之ヲ定ム

| | | |
|------------------------------------|----|-----|
| 淡黑色印紙 | 一枚 | 三錢 |
| 黑色印紙 | 同 | 五錢 |
| 赭色印紙 | 同 | 拾錢 |
| 茶褐色印紙 | 同 | 五拾錢 |
| 黃色印紙 | 同 | 壹圓 |
| 青色印紙 | 同 | 五圓 |
| 橙黃色印紙 | 同 | 拾圓 |
| 綠色印紙 | 同 | 拾五圓 |
| 橘栗色印紙 | 同 | 貳拾圓 |
| 印紙ハ訴狀其他書類ノ正本ニ貼用シ貼用者ノ印章ヲ以テ消印ス 可シ | | |

○印紙類賣捌規程明治十七年四月

沿革略記明治十五年十二月第二十七號布達ヲ以テ印紙賣捌手
續ヲ定ム○十七年四月第九號布達ヲ以テ前令ヲ廢シ
印紙賣捌規程ヲ定ム是レ現行法ナリ

印紙類賣捌規程左ノ通相定明治十七年六月一日ヨリ施行ス
但從前ノ印紙賣捌手續ハ總テ同日ヨリ廢止ス

印紙類賣捌規程

第一條 印紙類ノ賣捌ハ陸軍恩給令海軍恩給令巡查看守給助例ニ依
テ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者及ヒ陸軍恩給令第二十一條第一
項海軍恩給令第二十二條第一項巡查看守給助例第二條第三項ニ掲
クル寡婦(孤兒)ニシテ扶助料ヲ受クル者ニ限り之ヲ許可スヘシ

第二條 府知事縣令ハ適宜每郡區内ニ印紙類賣捌人員ヲ定メ之ヲ大
藏省ニ届出ヘシ

第三條 第一條ノ資格ヲ有スル出願者第二條ノ定員ニ滿タサル時ハ
一般陸軍恩給令海軍恩給令巡查看守給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者
ヲ以テ之ニ充ツヘシ

但本條ヲ以テスルモ猶定員ニ充タサル地方ニ於テハ二ヶ年以内ノ期限ヲ定メ一般人民ニ許可スルコトヲ得

第四條 印紙類ノ賣捌ヲ爲サントスル者ハ現居住地方ノ郡區役所ニ願出管轄廳ヨリ賣捌所看板ヲ受ケ之ヲ店頭ニ掲クヘシ

第五條 印紙類賣捌所ハ一人一ヶ所ニ限り許可スルモノトス

第六條 此規程ニ依リ賣捌クヘキ印紙類左ノ如シ

一 證券（印紙）（十七年第十一號布告）
（界紙）（ヲ以テ界紙ヲ廢止ス）

一 烟草印紙

一 訴訟用印紙

一 賣藥印紙

第七條 印紙類ハ必ス定價ヲ以テ賣捌クヘシ賣捌ノ外讓與貸與スル

コトヲ許サズ

第八條 印紙類ハ其代金ヲ上納セシメタル後下渡スヘシ

但第一條ノ資格ヲ有スル者及ヒ第三條ノ受恩典者ニハ其代金五

百圓マテ公債證書ヲ抵當トナシ六ヶ月以内之カ延納ヲ許スコトアルヘシ

第九條 印紙賣捌手数料ハ第一條ノ資格ヲ有スル者ニハ賣捌代金高百分ノ十其他ノ者ニハ百分ノ七ヲ給スヘシ

第十條 賣捌人ニシテ左ノ事項ニ該ル者ハ賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣捌所看板ヲ返納スヘシ此場合ニ於テハ返納印紙ニ對スル既納ノ代金ハ返付シ之ニ對スル當初下渡ノ手数料ハ返納スヘシ（十七年第二以テ各項共改正）
（十號布達ヲ）

一 恩給ヲ受クルノ權消絶シタル時

一 恩給停止ノ時

一 廢業シタル時

一 此規程ニ背キ營業禁止又ハ停止セラレタル時

第十一條 印紙類火災盜難等ノ爲メニ亡失スルモ其代金ノ返付ヲ請求スルコトヲ得ス但避クヘカラサル事變ニ遭遇シタル者ハ事狀ヲ

具シテ處分ヲ乞フヘシ

第十二條 印紙類ノ損傷又ハ汚染シタル時ハ其印紙ニ代金百分ノ五ノ金額ヲ添ヘ印紙交換ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 此規程ニ違背シタル者ハ情狀ニ依リ管轄廳ニ於テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトアルヘシ

○ 船稅規則 明治十六年四月十三號布告

沿革略記

明治元年八月達ヲ以テ軍艦ノ外一切ノ商船遊船共燒印ヲ捺シ稅銀ヲ徵シ無印ノ船舶往來ヲ禁ス○二年十月民部外務兩省達ヲ以テ始メテ西洋形商船及ヒ日本形商船ノ稅額ヲ定ム○四年八月布告ヲ以テ船稅規則ヲ制定ス○六年一月第三十一號布告ヲ以テ遊船ノ稅則ヲ制定ス○七年二月第二十一號布告ヲ以テ解漁船並海川小廻船等ノ稅則ヲ制定ス○八年二月第二十七號布告ヲ以テ遊船稅ハ都テ七年

第二十一號布告解漁船並海川小廻船稅則ニ據ラシム○十六年四月第十三號布告ヲ以テ前令船稅ニ關スル規則ヲ廢止シ更ニ船稅規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス

但船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

(別冊)

船稅規則

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ヲ引換ヲ乞フヘシ

第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場

所在ノ地方廳ニ願出検査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繋場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

西洋形蒸氣船

百噸ニ付一年金拾五圓

同 風帆船

同 同 金拾圓

日本形船積石五拾石以上

百石ニ付同 金貳圓

同 積石五拾石未滿

自舳梁

舳漁船小廻船積石ニ拘ラス

長 三間迄ハ一年金三拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ増加ス

遊船

長自舳梁三間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ増加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五拾石未滿ノ船并舳漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繋場所在ノ地方廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繋場ヲ變換シタル時ハ其旨定繋場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ

倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船

水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「バッテリー」船ノ類

第二章 納税

第十一條 税金ハ一年ヲ二期ニ分ケ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徴收スル者トス其前半年分ハ一月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り定繫場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル税金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ税金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所在ノ地方廳ニ届出納税ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納税ヲ辨セシムヘシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納税期限ニ係ル時

ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納税ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ル者ハ處罰ノ後其税金ヲ追徴ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ル者ハ其脱税高五倍ノ科料若クハ

罰金ニ處ス

第十九條 免税船ヲ有税船ノ用ニ充テタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免税船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

○車稅規則 明治八年二月 第二十七號布告

沿革略記

明治四年五月達ヲ以テ東京府下商賈用大小車及諸官員華士族卒所持ノ馬車人力車ヨリ若干ノ金額ヲ徵シ

道路修繕費ニ充ツ○六年一月第三十一號布告ヲ以テ僕婢馬

車人力車駕籠乘馬遊船等諸稅規則ヲ制定ス○八年二月第二

十七號布告ヲ以テ六年第三十一號布告ノ遊船ハ船稅規則ニ

照シ收稅シ車類ハ改メテ車稅規則ヲ定ム是レ現行法ナリ

明治六年一月第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨

七年十二月三十一日限り相廢シ尤遊船ノ儀ハ本年二月一日ヨリ昨七

年二月第二十一號布告解魚船并ニ海川小廻船等船稅規則ニ照準收稅シ

車類ノ儀ハ改メテ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告

候事

車稅規則

第一則

馬車貳疋立以上

一箇年稅金三圓

同 壹疋立

一箇年稅金貳圓

荷積馬車

一箇年稅金壹圓

人力車貳人乘

一箇年稅金貳圓

同 壹人乘

一箇年稅金壹圓

牛車

一箇年稅金壹圓

荷積大七大八車

一箇年稅金壹圓

荷積中小車但大六以下

一箇年稅金五拾錢

第二則 新調ノ車ハ總テ其都度區戸長へ届出檢印可申受事

但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則 新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破

解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得

事

車稅規則

第四則 右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戸長へ取集メ其管轄廳へ可相納事

但前半年分ハ二月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り其管轄廳へ可相納事(十一年第四號布告)

第五則 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事

十四年第七十二號布告
例處斷方參看第十四類ニ載ス

船稅ニ系ル事項ハ十六年
第十三號布告ヲ以テ船稅
規則制定ニ仍リ消滅ス船
稅規則ハ本類ニ載ス

○修繕ノ車稅額ニ増減ヲ生スルモ稅金徵收方十三年六月廿三號達
「船稅船解」車へ修繕ヲ加ヘ爲メニ稅額ニ増減ヲ生シタルモハ新調ト
認メ更ニ該期ヨリ相當ノ稅金徵收候儀ト可相心得此旨相達候事
○人力車一人乘二人乘ノ區別十四年九月
八年第廿七號布告車稅規則中人力車ノ儀横市内法曲尺貳尺未滿
ヲ以テ一人乗トシ右以上ヲ以テ貳人乗ト相定區別可致此旨相達
候事
○荷積車大七車中小車ノ區別十一年七月三十五號達
車稅規則中荷積車ノ儀ハ荷重陸ノ荷物ノ積積相乘尺積十四

坪以上ヲ以テ大七車以上トシ右未滿ヲ以テ中小車以下ト相心得
更ニ區別可致此旨相達候事

○北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則明治十年八月
第五拾六號布告

沿革略記 明治六年十月開拓使無號布達ヲ以テ北海道產物輸出
取締ノ爲メ出帆免狀ヲ下付スルモノト爲ス○八年二
月第十四號布告ヲ以テ北海道產物出港稅則並各港船政所規
則ヲ制定ス○同年四月開拓使無號布達ヲ以テ六年十月ノ無
號布達ヲ廢止ス○十年八月第五十六號布告ヲ以テ八年第十
四號布告ヲ改正ス是レ現行法ナリ

明治八年二月第十四號布告北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則別
冊ノ通改正本年九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則

第一條 北海道諸產物鐵屑類酒類麻卵紙生糸器具ヲ除ク各府縣へ輸送ノ節ハ官私用品陸海軍用ノ別ナク出港稅トシテ其原價百分ノ四ヲ貨主ヨリ下條ニ掲載スル一ノ船政所ニ納ムヘシ

但本文ノ稅金ハ船長ニ於テ取纏メ外國船ヲ以輸送ノ節ハ貨主納入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 船政所有之各港

渡島國龜田郡函館港

同 國松前郡福山港(十四年第六十六號布告ヲ以テ津輕郡福山港ヲ松前郡福山港ト改ム)

同 國檜山郡江差港

贈振國室蘭郡室蘭港

後志國小樽郡小樽港

同 國壽都郡壽都港

釧路國厚岸郡厚岸港

根室國根室郡根室港(十三年第五十一號布告ヲ以テ本項追加)

左ノ十一箇所ニ於テ毎年五月ヨリ十月マテノ間船政派出所ヲ置キ船政所同様ノ事務ヲ取扱フヘシ(十三年第三十三號布告ヲ以テ十三年第三十三號布告ヲ以テ改ム)

渡島國松前郡吉岡(十四年第六十六號布告ヲ以テ福島郡吉岡ヲ松前郡吉岡ト改ム)

同 國上磯郡石別(十四年第六十六號布告ヲ以テ上磯郡石別ト改ム)

同 國松前郡江良町(十四年第六十六號布告ヲ以テ津輕郡江良町ヲ松前郡江良町ト改ム)

同 國爾志郡熊石

後志國古平郡古平

同 國岩内郡岩内

石狩國石狩郡石狩

天鹽國增毛郡增毛(十三年第三十三號布告ヲ以テ本項追加)

日高國浦河郡浦河

(本項ハ根室國根室郡根室トアルヲ十三年第五十一號布告ヲ以テ刪除)

釧路國厚岸郡濱中(十三年第五十一號布告ヲ以テ本項追加)

千島國振別郡振別

北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則

第三條 諸産物ノ原價ハ右各港ニ於テ毎月上中下旬三度賣買相場ヲ蒐集シ之ヲ査定スヘシ

但相場詳ナラサル物品ハ賣買仕切狀ヲ檢査シテ之ヲ定ムヘシ

第四條 諸船舶各府縣下ヨリ北海道へ入船スルキハ船免狀或ハ船稅鑑札ヲ添へ第一號書式ノ通其港津船政所或ハ地方役所又ハ區戸長役場以下同へ速ニ届出ヘシ

但北海道産物ニ類似ノ物品ヲ青森秋田兩縣下等ヨリ廻漕スル分ハ其品名數量ヲ詳記シタル仕出場ノ送狀或ハ賣買仕切狀ヲ添届出ヘシ

第五條 北海道各港津ヲ回漕スル諸船舶ハ出帆ノ節甲港船政所或ハ地方役所へ申出改所役所ニ於テハ第二號書式ニ法リタル檢印帳ヲ付與シテ回漕セシムヘシ其船乙港へ入津セハ乙ノ船政所或ハ役所へ速ニ檢印帳ヲ納メ置キ出帆ノ節乙港ノ檢印ヲ乞フテ携帯スヘシ
丙丁港ニ出入モ亦之ニ準ス

但回漕數月ニ渉ル船モ該年中ハ一ノ檢印帳ヲ用ヒシメ翌年ハ更ニ之ヲ付與スヘシ

第六條 諸船舶北海道内ヨリ各府縣へ向ケ回漕ノ節ハ第二條ニ掲クル各港ノ内何レカ一港へ入船シテ其船政所へ檢印帳ヲ還納シ第三號甲ノ書式ニ法リタル出港稅納目錄貳通ヲ差出シ産物積載セサル節ハ第四號甲ノ書式ノ出帆届貳通ヲ差出スヘシ改所ニ於テハ審査ノ上産物積載セタルハ定則ノ税金ヲ領收シ第三號乙ノ書式ニ法リ産物積載セサルハ第四號乙ノ書式ニ法リ與書シテ壹通ハ留置キ壹通ヲ下付シテ出帆差許スヘシ

但許可ヲ得タル後都合ニ依リ三日以内ニ出帆セサル船ハ更ニ其旨ヲ届ケ出ヘシ

第七條 船政所ナキ地方ヨリ産物積取直ニ各府縣へ輸送セント欲スルモノハ其積受ノ地へ航行ノ節第二條ニ掲クル各港ノ内何レカ一港へ入津シ豫メ其積取ルヘキ産物ノ高ヲ計算シ第二號甲ノ書式ニ